

目標

- ・集合の要素の多少を1対1対応で比べることができる。
- ・数が同じ、数が違う（多い・少ない）などの意味を理解する。（知識・技能）

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P3の絵を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> たりるかな </div> <p>「コアラに傘はたりますか。」 『たりる。』</p> <p>「どうすればわかりますか。」 『配ってみる。』『線で結ぶ。』</p> <p>「線を結んで比べましょう。」 「コアラと傘、どちらが多いですか。」 『傘』 「線で結ぶとどちらが多いか少ないかがわかります。」 「ウサギに一輪車はたりるか、どうすればわかりますか。」 『線で結ぶ。』 「一輪車はたりませんね。」</p> <p>2. P4の絵を見る。 「くまにいすはたりますか。」 『たりる』 「線で結ぶと困ることがあります。どんなことですか。」 『線が見にくい。』 「いすの代わりに黄色いブロック、くまの代わりに白いブロックを置いて比べてみましょう。」</p> <p>3. P5の絵を見る。 「チョウとはなのかずをくらべてみよう」</p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> まとめ 線で結んだり、ブロックを並べたりすると、 どちらが多いかわかる。 </div>	<p>1. 絵を見て、どんな場面か話し合い、動物やものの名前を確認する。（5分）</p> <p>2. コアラみんなが傘を使えるかという文脈から「配ってみる」「結んでみる」という数を比べるアイデアを引き出したい。（15分）</p> <p>3. どちらが多いかをおさえる。（20分）</p> <p>4. コアラの場面と同様に線をつないでウサギと一輪車の数を比べる。</p> <p>5. 前ページと同じ方法だとうまくいかないこと経験を通して知らせる。</p> <p>6. ブロックとマス目を使ってクマと椅子の数を比べる。</p> <p>7. クマの場面と同様に、ブロックを並べて比べる。</p>

II 指導のポイント

- ・どんな場面か話し合う中で、集合の認識や数の多少への関心を引き出しましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

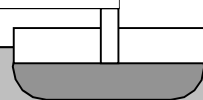
- ・「何をしようとしているか」から「それをするのに数は足りるのか」と意識させることで、線で結ぶ活動やブロックを置く活動へと促しましょう。

なかまづくり

絵 (p 3)

絵 (p 4~5)

まとめ



目標

・ 1～5の数の書き方を理解する。(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P6～7の絵を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">おなじかずのなかまを探そう</div> <p>「タヌキと同じ数の仲間を探しましょう。」</p> <p>①タヌキの上にブロックを置く。</p> <p>②同じ数の動物や物の上にブロックを移す。(帽子・花飾り・ランドセル)</p> <p>③これらは同じ数の仲間であることを押さえる。</p> <p>④数図●●●●●と対応させ、《5》と表し《ご》ということを知らせる。</p> <p>⑤以下、同様に《クマ・パンダ・カバ・ウサギ》と同じ数の仲間を探し、《1・2・3・4》《いち・に・さん・し》を扱う。</p> <p>2. P8～9「クマ・パンダ・カバ・ウサギ・クマの数だけ数図カードに色を塗りましょう。」</p> <p>3. 「1～5の数字を書く練習をしましょう。」 『書き順が決まっているんだね。』</p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ かずはすうじ (1・2・3・4・5) をつかってあらわす。</p> </div>	<p>1. 数詞《いち》～《ご》を知り、唱えて数えられるようにする。 (25分)</p> <p>具体物や半具体物などの数と数字を対応させる活動を行うことで、数のイメージと数字を結びつけることが大切である。数字を書くだけの学習にならないようにする。</p> <p>2. 教科書の数図カードに数だけ●を塗る。 (30分)</p> <p>3. 教科書の枠を使って数字を書く練習をする。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・ブロックの数と数図カードの●の数を関連づけて指導したり、身の回りのものと関連づけて指導しましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・ブロックの操作をさせたり、数を唱えさせたりすることで、ものの個数を数える経験をさせましょう。

おなじかずのなかまをさがそう

絵 (p 6~7)

絵 (p 8~9)

まとめ



目標

・具体物、半具体物、数図、数字、数詞を相互に関連づけて捉えることができる。

(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p data-bbox="212 405 999 459">かぞえよう</p> <p data-bbox="188 468 1026 837">1. P10の具体物の絵を見て数字で書く。 「くるまは何台あるかな。」 ①車を数えて□に数字で書かせる。 ②他の絵についても同様に考えさせ、数を数えて数字を書き込ませる。 「数を数えて、数字で書きましょう。」 ③身の回りにある具体物(1~5)の数を数えて数字で書く。</p> <p data-bbox="188 882 922 994">2. 具体物を見てブロックで表し、数詞を唱える。 「絵を見て、かいてあるものの数だけブロックを並べましょう。」</p> <p data-bbox="188 1039 959 1135">3. 数カードを見て数詞を唱え、数図カードで表す。 「数カードを見て、その数の数図カードを出しましょう。」</p> <p data-bbox="188 1180 1026 1330">4. 数カードを見て数詞を唱え、具体物(鉛筆やノートなど)で表す。 「数カードを見て、その数の物を出しましょう。」</p>	<p data-bbox="1086 394 1433 618">1. ブロック、数図カード、半具体物を使わせる時には机上が煩雑にならないように気をつける。(25分)</p> <p data-bbox="1086 640 1433 913">2. 具体物や半具体物などの数と数字を対応させる活動を行うことで、数字を書くだけの学習にならないようにする。</p> <p data-bbox="1086 981 1433 1211">3. 数名のグループや、列ごとにやらせるなど、ゲーム感覚で活動させると良い。 (30分)</p>
<p data-bbox="212 1361 991 1415">ならべよう</p> <p data-bbox="188 1460 871 1494">5. 「算数ブロック5個で色々な形を作りましょう。」</p>	<p data-bbox="1086 1438 1366 1563">4. 辺か頂点が接することを約束しておく。</p> <p data-bbox="1086 1585 1366 1809">5. 数の構成的な見方を説明する児童には、ふれる程度にしておく。(45分)</p>
<p data-bbox="193 1621 1031 1771"> まとめ 絵、ブロック、数図カード、数字で、1から5までの数のものを表すことができる。 </p>	

II 指導のポイント

・具体物を数えるときに数を用いるよさに気づかせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

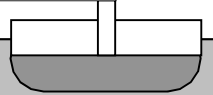
・教室など身のまわりにある物の中から「〇〇はいくつあるかな」「2つあるものを探そう」など楽しく理解を図る活動を取り入れましょう。

かぞえよう

ならべよう

絵 (p 10~11)

まとめ



目標

・5の構成を理解する。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<div data-bbox="204 383 991 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">5はいくつといくつ</div> <p>1. P12のように袋の中から2色のおはじき8個の中からおはじきを5個とる場面を共有する。 「写真の4人が取り出したおはじきは、青が何個で赤が何個ですか。」</p> <p>2. おはじきを使って、実際に活動する。</p> <p>3. 5はいくつといくつかを考える。 「5個のおはじきはいくつといくつですか？」</p> <p>4. □の中に数を書かせ、5はいくつといくつかを言わせる。</p> <p>5. 5の構成をとらえ、5はいくつといくつで表す。 「5はいくつといくつに分けられますか。○の数を数えながら□に数を書きましょう。」 「分かっている方の数の分だけ○に色を塗って、もう一つの数を□に書きましょう。」</p> <div data-bbox="204 1487 991 1615" style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ いろごとにならべるとみやすい</p> </div>	<p>1. 教師がやって見せ、場面を理解させる。 (5分)</p> <p>1. おはじきの表裏でやると、片方が0個になる場合があるので、気をつける。 (15分)</p> <p>2. 整理して並べた図を示し、バラバラよりもわかりやすいことをおさえる。(25分)</p> <p>3. 数図も用いて、5の合成・分解を確かなものにしていく。 (30分)</p> <p>5. 色を塗る、唱えるなど、活動を通して、5の合成・分解を習熟していく。(45分)</p>

II 指導のポイント

・分解の見方と合成の見方は表裏の関係にあるので、これを往復しながら数の見方が深められるように、様々な場面でそれぞれの見方ができるように指導していく。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

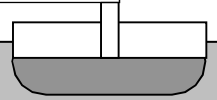
・具体物、おはじき、数図、数字、数詞など様々な5の合成・分解を表すことで、5の合成・分解についての理解を深めさせましょう。

5はいくつといくつ

教科書 (p 1 2)

教科書 (p 1 3)

まとめ



月

日()

時間目 名前

① げえむの けっかを きろくしましょう。

② 5は いくつと いくつですか。

5

は ●○○○○○

●●○○○

●●●○○

●●●●○

と

と

と

と

目標

- ・数量の大きさを表す「ろく」「しち」・・・「じゅう」の数詞と、「6」「7」・・・「10」の数字が対応していることを知り、6～10個のものの数を数えることができる。
- ・6～10の数字の書き方を理解する。

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">おなじ かずの なかまを さがそう</p> <p>1. P14～15の絵を見て、動物たちが遊んでいる様子について話し合い、集合作りをする。 「どんな動物たちが、何をしているかな。」</p> <p>2. 同じ数の仲間（6の集合）を探す。 「犬と同じ数の仲間を探してみましょう。」</p> <p style="margin-left: 20px;">①犬の上にブロックを置く。 ②同じ数の物の上にブロックを移す。（バケツ） ③犬とバケツは同じ数の仲間であることを押さえる。 ④数図●●●●●●と対応させ、《6》と表し《ろく》ということを知らせる。</p> <p>1. その他の同じ数の仲間（7～10の集合）を探す。 「ネコ、ブタなど、他の動物と同じ数の仲間を探してみましょう。」</p> <p style="margin-left: 20px;">以下、同様に《ネコ・ブタ》などと同じ数の仲間を探し、《7・8・9・10》《しち・はち・く・じゅう》を扱う。</p>	<p>1. ブロック、数図カード、半具体物を使わせる時には机上が煩雑にならないように気をつける。（25分）</p> <p>2. 具体物や半具体物などの数と数字を対応させる活動を行うことで、数字を書くだけの学習にならないようにする。</p>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">かずを かこう</p> <p>4. P16～17「犬・ネコ・ブタ・リス・ネズミの数だけ数図カードに色を塗りましょう。」</p> <p>5. 「7～10の数字を書く練習をしましょう。」 『特に7、9の読み方に気をつけましょう。』</p>	<p>3. 数あてゲームを通して、習熟を図る。 (35分)</p> <p>4. 理解を定着させる。 (45分)</p>
<p style="border: 3px double black; padding: 5px;">まとめ</p> <p style="border: 3px double black; padding: 5px;">5よりおおいかずは6、7、8、9、10であらわせる。</p>	

II 指導のポイント

- ・具体物、ブロック、数図、数字、数詞など様々な表し方を扱うことで、数についての理解を深めさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

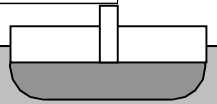
- ・6～10の数について、具体物、ブロック、数図、数字、数詞を対応させる活動を、クイズ、ゲーム的に行い、習熟させましょう。

おなじかずのなかまをさがそう

絵 (p 14 ~ 15)

絵 (p 16 ~ 17)

まとめ



目標

・6～10の数について、具体物、半具体物、数図、数字、数詞を相互に関連づけることができる。(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<div data-bbox="185 405 971 463" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">かぞえよう</div> <p>1. P18の具体物の絵を見て数字で書く。 「カエルは何ひきいるかな。」 ①カエルを数えて□に数字で書かせる。 ②他の絵についても同様に考えさせ、数を数えて数字を書き込ませる。 「数を数えて、数字で書きましょう。」</p> <p>2. 具体物を見てブロックで表し、数詞を唱える。 「絵を見て、かいてあるものの数だけブロックを並べましょう。」</p> <p>3. 数カードを見て数詞を唱え、数図カードで表す。 「数カードを見て、その数の数図カードを出しましょう。」</p> <p>4. 音の数を聞いて数詞を唱え、数カードで表す。 「音を聞いて、一緒にかぞえ、その数カードを出しましょう。」</p> <div data-bbox="201 1292 991 1350" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">せんで むすぼう</div> <p>1. 「同じ数をあらかず仲間を線で結びましょう。」</p> <div data-bbox="185 1469 978 1599" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 絵、ブロック、数図カード、数字で、6から10までのものをあらかずせる。</p> </div>	<p>1. ブロック、数図カード、半具体物を使わせる時には机上が煩雑にならないように気をつける。(10分)</p> <p>2. 具体物や半具体物などの数と数字を対応させる活動を行うことで、数字を書くだけの学習にならないようにする。(15分)</p> <p>3. 数名のグループや、列ごとにやらせるなど、ゲーム感覚で活動させると良い。(25分)</p> <p>4. 時間に余裕があれば、身の回りにあるものを数えたり、数図・数カードで表す活動や、「8個あるものを探そう」のような活動に取り組みせたい。(35分)</p> <p>5. 数の構成的な見方を説明する児童には、ふれる程度にしておく。(45分)</p>

II 指導のポイント

・具体物、ブロック、数図、数字、数詞など様々な表し方を扱うことで、数についての理解を深めさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・6～10の数について、具体物、ブロック、数図、数字、数詞を対応させる活動を、クイズ、ゲーム的に行い、習熟させましょう。

ブロック・数図・数字・読み方の対応

まとめ



目標

・6の構成を理解する。(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<div data-bbox="204 412 991 468" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">6はいくつといくつ</div> <p>1. 算数ブロックを用いた活動を通して、6はいくつといくつかを考える。 「隠している算数ブロックはいくつかあてましょう」 2人1組で活動する。</p> <p>2. 結果を発表し合い、6の構成について理解を深める。</p> <p>3. □の中に数を書かせ、6はいくつといくつかを言わせる。</p> <p>4. 6の合成・分解を数字で表させる。 「6はいくつといくつに分けられますか。□に当てはまる数を書きましょう。」</p> <div data-bbox="188 1346 975 1402" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">かぞえよう</div> <p>5. 6の構成を意識して数を数える。 「絵のチューリップはぜんぶでいくつありますか。」</p> <div data-bbox="197 1585 987 1677" style="border: 3px double black; padding: 5px;">6は○と○にわけられる</div>	<p>1. 提示用の算数ブロックが6つあることを確認した後、いくつかを隠し、残りを見せることで、活動を理解させる。(10分)</p> <p>2. 実態に合わせて5の時と同様に数図に色を塗って見せても良い。(20分)</p> <p>3. 数カードや数図、数唱などを関連させ、とらえさせていく。(25分)</p> <p>1. 合成の見方、分解の見方を往復して数の構成をとらえられるように繰り返していく。(35分)</p> <p>2. 7以降の合成・分解も同様なので、丁寧に取り扱う。3と3で6のように絵の配置や色などを利用して数えさせる。(45分)</p>

II 指導のポイント

・具体物、ブロック、数図、数字、数詞など様々な表し方を扱うことで、6の構成についての理解を深めさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

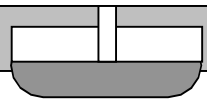
・6の合成・分解について、具体物、ブロック、数図、数字、数詞を対応させる活動を、クイズ、ゲーム的に行い、習熟させましょう。

6はいくつといくつ

教科書 P20～21

6の分け方

まとめ



月

日()

時間目

名前

① 6は いくつと いくつですか。

6

は



と



と



と



と



と

目標

・7の構成を理解する。(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<div data-bbox="204 472 991 528" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">7はいくつといくつ</div> <p>1. 算数ブロックを用いた活動を通して、7はいくつといくつかを考える。 「隠している算数ブロックはいくつかあてましょう」 2人1組で活動する。</p> <p>2. 結果を発表し合い、7の構成について理解を深める。</p> <p>3. □の中に数を書かせ、7はいくつといくつかを言わせる。</p> <p>4. 7の合成・分解を数字で表させる。 「7はいくつといくつに分けられますか。□に当てはまる数を書きましょう。」</p>	<p>1 提示用の算数ブロックが7つあることを確認した後、いくつかを隠し、残りを見せることで、活動を理解させる。(10分)</p> <p>1. 6のときと同じ活動であることを確認する。(20分)</p> <p>2. 数カードや数図、数唱などを関連させ、とらえさせていく。(25分)</p> <p>4. 合成の見方、分解の見方を往復して数の構成をとらえられるように繰り返していく。(35分)</p>
<div data-bbox="204 1290 975 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">かぞえよう</div> <p>5. 7の構成を意識して数を数える。 「えんぴつは何本ありますか。工夫して数えましょう。」</p> <div data-bbox="204 1491 986 1581" style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;">7は○と○にわけられる</div>	<p>5. 2と5で7のように絵の配置や色などを利用して数えさせる。(45分)</p>

II 指導のポイント

・具体物、ブロック、数図、数字、数詞など様々な表し方を扱うことで、7の構成についての理解を深めさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

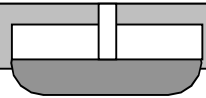
・7の合成・分解について、具体物、ブロック、数図、数字、数詞を対応させる活動を、クイズ、ゲーム的に行い、習熟させましょう。

7はいくつといくつ

教科書 P22~23

7の分け方

まとめ



月

日()

時間目

名前

① 7は いくつと いくつですか。

7 は ● ○○○○○○

●●○○○○○

●●●○○○○

●●●●○○○

●●●●●○○

●●●●●●○

と

と

と

と

と

と

目標

・ 8、9 についての構成を捉えることができる。(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">8はいくつといくつ</div> 1. P24を見て、場面の様子をつかませる。 「右の子どもは次に何のカードを取れば8をつくれますか。」 「2枚で8にしましょう。」 『2と6、7と1…。』 ・ペアをつくり、ゲームを行う。 2. 8の合成、分解を数字で表させる。 「8はいくつといくつに分けられますか。」 □にあてはまる数を書きましょう	1. P24の絵を見てゲームの方法を知る。 (5分) 2. ペアでゲームを行う。 (10分) 3. 8の分けられ方をまとめる。 (20分) →シート①
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">かぞえよう</div> 3. 8の構成を意識して数を数える。 「ウサギは全部で何匹いますか。工夫して数えましょう」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">9はいくつといくつ</div> 1. P26を見て、場面の様子をつかませる。 「右の子どもは次に何のカードを取れば9をつくれますか。」 「2枚で9にしましょう。」 『5と6、6と3…。』 ・ペアをつくり、ゲームを行う。 2. 9の合成、分解を数字で表させる。 「9はいくつといくつに分けられますか。」 □にあてはまる数を書きましょう	「いくつといくつ」の片側が1増えると、対応する数は1減っていく規則正しさを視覚的に捉えさせる。 4. P26の絵を見てゲームの方法を知る。 (25分) 5. ペアでゲームを行う。 (30分) 6. 9の分けられ方をまとめる。 (45分)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">かぞえよう</div> 6. 9の構成を意識して数を数える。 「車は全部で何台ですか。工夫して数えましょう」 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> まとめ ・8は「1と7」「2と6」「3と5」「4と4」「5と3」「6と2」「7と1」に分けられる。 ・9は「1と8」「2と7」「3と6」「4と5」「5と4」「6と3」「7と2」「8と1」に分けられる。 </div>	→シート②

II 指導のポイント

・ 具体物、ブロック、数図、数字、数詞など様々な表し方を扱うことで、8、9の構成についての理解を深めさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・ 8、9の合成・分解について、具体物、ブロック、数図、数字、数詞を対応させる活動を、クイズ、ゲーム的に行い、習熟させましょう。

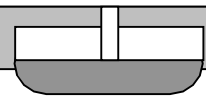
8はいくつといくつ

9はいくつといくつ

8の分け方

9の分け方

まとめ



目標

・10についての構成を捉えることができる。(知識・技能)

I 本時の流れ	
学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P28「ブロックはいくつかくれていますか」 「P28中段 □の数を書きましょう。」 『4と6、1と9…。』</p> <p>2. 「10合わせゲームをしましょう。」 いくつといくつで10になるか考えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">10はどんな数に分けられるのかな。</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">・教師が問題を出し、ゲームを行う。</div> <p>3. 「10はいくつといくつに分けられますか、□にあてはまる数を書きましょう。」 ・P29の□に9種類の分けられ方を記入する。</p> <p>4. 「自分で数を決めて、10を分解してみましょう」 ・P29下段の□に自分で数を決めて数を記入する。</p> <p>5. 「10はいくつといくつに分けられるか、まとめましょう。」 ・ワークシートに9種類の分けられ方を記入する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ</p> <p>・10は「1と9」「2と8」「3と7」「4と6」「5と5」「6と4」「7と3」「8と2」「9と1」に分けられる。</p> </div>	<p>1. P28の絵を見てゲームの方法を知る。 (5分)</p> <p>2. 10合わせゲームを行う。 (15分)</p> <p>3. 10の分け方を確かめる。 (20分)</p> <p>4. 学級全体で確認するとき、他にないか、これで全部かを確認していく。(1、9)(9、1)が反対になっていることに気付く児童がいれば取り上げる。(30分)</p> <p>5. 10の分け方をまとめる。(45分)</p> <p>→シート</p>

II 指導のポイント

・10の構成は十進法の理解の基礎となります。10の合成・分解は、ある程度反射的にできるまで習熟させましょう。

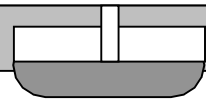
III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・今まで行ってきたゲームの方法を取り入れて、10の構成理解の練習を行うこともできます。

10はいくつといくつ

10の分け方

まとめ



目標

・10についての構成を捉え、確実にすることができる。(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">10をつくろう</div> <p>1. P30上段を見て、場面の様子をつかませる。 「あといくつで10になるかを考えましょう。」 「2枚で10にしましょう。」 『3と7、…。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを確認する。 ・ゲームをする。 <p>2. P30下段「ペアづくりをしましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法を確認する。 ・教科書に書き込む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">かぞえよう</div> <p>3. 10の構成を意識して数を数える。 「一輪車は全部で何台ありますか。 工夫して数えましょう。」</p>	<p>1. P30の「あといくつかな」のルールを理解し、ゲームを行う。(15分)</p> <p>2. 10の構成に着目し、ペアづくりをする (25分)</p> <p>3. 10の構成を意識して、数を数える。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・ゲームによる活動を主体とした学習で、楽しみながら習熟させましょう。

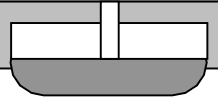
III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・「クラス全体で」「ペアをつくって」「チームで」など、ゲームの形式を色々工夫できます。

いくつといくつ

ゲームのルール

まとめ



目標

・1から10の数について大小を比較し、数の系列を捉えることができる。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P32上段「カードを出し合って、大きさ比べをしましょう。」 ゲーム・数図カードどうして ・数図カードと数カードで ・数カードどうして</p> <p>2. P33上段「何をしている絵かな。」 『カードを並べている。』 『空いたところへカードをあてはめている。』 空いたところは、どんな数かな。 黒板にカードをはり問題を出す。 (例) 1・□・3・□・5・6・□</p> <p>3. P33中段「□にあてはまる数を書きましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 数の大小を考えると、空いたところの数分かる。</p> </div> <p>4. P32~33下段「数を書きましょう。」</p>	<p>1. 数図カード、数カードを使って、数の大小比べのゲームを行う。 (20分)</p> <p>2人1組、相手や人数を変える、大きいほうが勝ち、小さいほうが勝ち…などいろいろと工夫し、楽しくゲームさせながら理解を深めることができるようにしましょう。</p> <p>2. ところどころ抜けて並んだカードを示し、当てはまる数を考えさせる。(35分)</p> <p>3. 1~10の数の列車と比べながら、□に当てはまる数を考える。 (40分)</p> <p>4. 少ない順に並んだブロックの数を数字で書く。(45分)</p>

II 指導のポイント

・数の大小比較をもとに、1~10までの数字を並べ、数列を理解させましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・数図カードや数カードを使い、ルールを工夫して楽しくゲームをすることで、数の多少や大小を比較させましょう。

おおきをくらべよう

教科書 P32～33

まとめ



目標

・1つもないことを0と表せることを捉えることができる。(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「何をしているところかな。」 『輪投げをしている。』 『輪を3こ投げて何個入るか。』 「イヌ・ウサギ・ネコは何個入れたかな。」</p> <p>1つもないのは、いくつと言ったらよいのかな。 『イヌ…3、ウサギ…2、ネコ…0』 「教科書に0を書く練習をしましょう。」</p> <p>2. 「輪投げゲームをして、点数をシートに書きましょう。」 「自分の入れた輪の数を発表しましょう。」</p> <p>3. 「皿の上には、いちごが何個あるかな。数を書きましょう。」 『1つずつ減っている。』 『何もないところは0だ。全部食べちゃった。』 「お弁当箱に入っているおにぎりの数を書きましょう。」</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 1つもないことを「れい」と言い、「0」と表す。</p> </div> <p>4. P35 「声に出して言ってみましょう。」</p>	<p>1. 輪投げをしている絵をもとに「0」について知り、書く練習をする。(15分)</p> <p>輪投げという具体的な場面で、「1つも入らなかった」という状況を想像させましょう。</p> <p>2. 輪投げゲームをして、輪の入った数をシートに記入し、発表する。(30分) →シート</p> <p>3. 0も数の仲間として□に数を記入する。(35分)</p> <p>4. いろいろな方法で数を唱え、習熟を図る。(45分)</p>

II 指導のポイント

・具体的な場面に即して、「1つもない」という状況は「0」と表せることを理解させましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

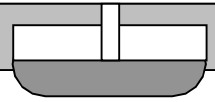
・輪投げが準備できない場合は、まとあて、玉入れなどの方法も可能です。

0 といふかず

輪投げの絵

輪投げの結果

まとめ



月

日()

時間目 名前

◎おなげをしましょう。はいったかずを かきましょう。

(1 かいめ)

こ なげて、 こ はいった。

(2 かいめ)

こ なげて、 こ はいった。

(3 かいめ)

こ なげて、 こ はいった。

◎はいった かずを はっぴょうしましょう。

目標

・数を順番や順序を表すものとして捉えることができる。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P36 「どんな場面かな。」 『かけっこをしている。』『5人で走っている。』 「先頭は誰かな。」「2番目は誰かな。」 『先頭はブタ。』『2番目はタヌキ。』 「キツネは何番目かな。」「コアラは何番目かな。」 『3番目』『5番目』</p> <p>2. P37 「どんな場面かな。」 『じゃんけん列車をしている。』『子供は6人いる。』 「前から3人」と「前から3人目」はどう違うのだろう。</p> <p>「《前から3人》というとな誰のことでしょう。前から3人におはじきをのせましょう。」 「《前から3人目》というとな誰のことでしょう。前から3人目におはじきをのせましょう。」 『前から3人はリス・イヌ・ウサギ。』 『前から3人目はウサギ。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 「前から3人」は、前から3人全部、 「前から3人目」は、3人目のひとりだけ。</p> </div> <p>3. P37 下段「車に色を塗りましょう。」</p>	<p>1. 絵を見てどんな場面か話し合い、関心を持たせる。順序を数で表す。(10分)</p> <p>2. 集合数と順序数の違いを理解する。(35分)</p> <p>おはじきをのせたり、鉛筆で囲んだりすることによって、集合数と順序数の違いを明確に捉えさせましょう。教室にある物なども使って練習しましょう。</p> <p>3. 理解を定着させる。(45分)</p>

II 指導のポイント

・「〇〇がいくつ」「前から〇人」は集合数、「〇番目、〇人目」などは順序数です。順序数には、「前から、上から・・・」などの位置や方向を表す言葉が必要です。

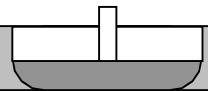
III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・教室にある具体物などを使って、順序や位置を表す練習をすると良いでしょう。

なんばんめ

集合数 (前から何人など)

順序数 (前から何人目など)



目標

・「上(下)から」「右(左)から」など基準の位置と方向を明確にして順序や位置を表すことができる。(技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「キツネは何番目でしょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>並んでいるものの場所はどう表せるのかな。</p> </div> <p>『上から2番目。』『下から5番目。』 『上からと下からでは違うね。』 『上からとか下からとか言わないと分からないね。』 「ブドウはどこにありますか。お話をしましょう。」 『ブドウは右から… 左から…。』</p> <p>2. 「パンダはどこにいるでしょう。わかりやすく言いましょう。」 『前から2番目、左から4番目。』 『後ろから3番目、右から3番目。』 「○○は右から何番目、左から何番目…とお話をしましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 並んでいるものは、上(下)から何番目、右(左)から何番目などと表せる。</p> </div>	<p>1. 縦並びの絵を見て「上から…」 「下から…」何番目かを表す。 (15分)</p> <p>くだものカードを並べかえると、練習をくり返すことができる。</p> <p>2. 横並びの物を見て「右から…」 「左から…」何番目かを表す。 (30分)</p> <p>教室にあるものなどを使って練習をくり返すことができる。左右は「向かって」などの言い方もあり難しい面もある。教科書のように「みぎ」「ひだり」を表示するとよい。</p> <p>3. 問題を作って出し合う。(45分)</p>

II 指導のポイント

・「○○がいくつ」「前から○人」は集合数、「○番目、○人目」などは順序数です。順序数には、「前から、上から…」などの位置や方向を表す言葉が必要です。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント。

・教室にある具体物などを使って、順序や位置を表す練習をすると良いでしょう。

ばしょは どこかな

教科書 P38

動物の絵
(縦並び)

果物の絵
(横並び)

教科書 P39

教室の絵

目標

・「あわせていくつ (合併)」の場合を加法として捉えることができる。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P2上段「何をしているところかな。」 『クッキーを2個と1個お皿に出している。』 『ジャガイモを3個と1個合わせている。』 あわせる 『は2個と1個で3個。』 『マジックは3本と1本で4本。』</p> <p>2. 「□1 合わせて何匹になりますか。」「ブロックを置いて説明しながら動かしましょう。」 『金魚は3匹と2匹で5匹。』 「3と2を合わせると5になります。このことを式で$3+2=5$と書きます。」</p> <p>1. △2「合わせると何台になりますか。」「ブロックを置いて説明しながら動かしましょう。」</p> <p>4. △3「式に書いて答えましょう。」 あめ 『式 $1+2=3$ 答え 3 わ。』 ペン 『式 $3+2=5$ 答え 5ほん。』 あり 『式 $3+1=4$ 答え 4ひき。』</p> <p>5. □4「どんなお話ですか。式と答えを考えましょう。」</p> <p>6. △5「式に書いて答えましょう。」</p>	<p>1. 具体物 (実物や絵) を使って問題把握する。 →シート① (10分)</p> <p>2. 記号の書き順、式の書き方、読み方を指導する。 →シート①② (25分) 「あわせて」「ぜんぶで」「みんなで」などの操作はどれも合併を表すことをおさえる。</p> <p>3. 理解を定着させる。 →シート①② (35分)</p> <p>4. 理解を定着させる。 →シート①② (45分)</p>

II 指導のポイント

・この単元は「あわせていくつ (合併)」という状況と、「ふえるといくつ (増加)」という状況が、共に加法で表すことができる学習をします。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

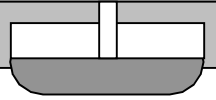
・ブロックなどを使い、言葉で表しながら操作させ、式の内容を理解させましょう。

あわせていくつ

しきとこたえ

ブロックをはる

まとめ



月

日()

時間目 名前

①あわせていくつかな。

ぶろっくをおいて、せつめいしながらうごかしましょう。

きんぎょ・じどうしゃ・すずめ・あめ・ペン・あり

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

②しきにかいてこたえましょう。

[きんぎょ] 3と2をあわせると、5になります

しき 3 2 5

こたえ 5 ひき

3 たす 2 は 5

[じどうしゃ]

しき 1 + 2 =

こたえ だい

[すずめ]

しき

こたえ

[あめ]

しき

こたえ

[ペン]

しき

こたえ

[あり]

しき

こたえ

目標

・「ふえるといくつ (増加)」の場合を、加法の関係として捉えることができる。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P7上段「何をしているところかな。」 『4個のクッキーに後から2個増えると6個。』 『4個のジャガイモに3個増えると7個。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ふえるといくつ」は式で表すとどうなるのかな。</p> </div> <p>2. みんなで何匹になりますか。「ブロックを置いて説明しながら動かしましょう。」 『金魚は5匹。3匹増えると8匹。』 「5に3をたすと、8になります。このことを式で$5+3=8$と書きます。」</p> <p>3. △2「2台来ると、何台になりますか。」「ブロックを置いて説明しながら動かしましょう。」 『はじめ4台あった。』『2台来たので…。』 『はじめ3わいた。』『4わ来たので…。』</p> <p>4. △3「$5+2$のしきになる えは どれですか」 『はじめ5匹いた。』『2匹来たので…。』</p> <p>まとめ 「ふえるといくつ」も、たし算の式で表すことができます。 $\square+\square=\square$</p> <p>5. □4「どんなお話ですか。式と答えを発表しましょう。」</p> <p>6. △5「式に書いて答えましょう。」</p>	<p>1. ブロックを操作し、増加の状況を捉える。 →シート① (15分)</p> <p>2. 「増えるといくつ」もたし算となることを捉える。 →シート①② (30分) 操作を通して、前時の《合併》と異なり、「はじめ〇つあった。そこへ〜」というように時間的経過が伴う《増加》であることに気づかせる。</p> <p>3. 理解を定着させる。 →シート①② (45分)</p>

II 指導のポイント

・前時の「あわせていくつ (合併)」も本時の「ふえるといくつ (増加)」も結果的に「全部でいくつか」を求めることになり、たし算になることを理解させました。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

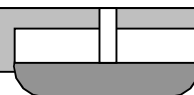
・ブロックなどを使った操作をし、前時の合併と本時の増加では、動きが違うことに気づかせましょう。

ふえるといくつ

しきとこたえ

ブロックをはる

まとめ



月

日()

時間目

名前

①ふえるといくつかな。

ぶろっくをおいて、せつめいしながらうごかしましよう。

きんぎょ・じどうしゃ・すずめ・ねこ

②しきにかいてこたえましよう。

[きんぎょ] 5に3をたすと、8になります

しき $5 \square + 3 \square = 8$

5 たす 3 は 8

こたえ 8 ひき

[じどうしゃ]

しき $4 + 2 = \square$

こたえ \square だい

[すずめ]

しき $3 + 4 = \square$

こたえ \square わ

[ねこ]

しき $6 + 3 = \square$

こたえ \square ひき

[はくちょう]

しき $\square + \square = \square$

こたえ \square わ

[はな]

しき $\square + \square = \square$

こたえ \square ほん

目標

- ・合併や増加の場面を見出し、加法として捉えることができる。(知識・技能)
- ・和が10までの加法計算ができる。(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. △6 「ノートに式を書いて、たし算をしましょう。」</p> <p>2. △7 「どんなお話かな。」 「問題を読みましょう。」 「式に書いて答えましょう。」</p> <p style="padding-left: 40px;">しき $2 + 6 = 8$ こたえ 8こ</p> <p>「ブロックを置いて説明しながら動かして確かめましょう。」</p> <p>3. △8 「どんなお話かな。」 「問題を読みましょう。」 「式に書いて答えましょう。」</p> <p style="padding-left: 40px;">しき $7 + 3 = 10$ こたえ 10にん</p> <p>「ブロックを置いて説明しながら動かして確かめましょう。」</p>	<p>1. ノートの基本的な使い方を指導する。 (10分)</p> <p>2. 合併の場面を捉え、立式する。(20分)</p> <p>初めての文章題を読んでの立式。「何が」「何個」「全部で」を丁寧に確認していく。</p> <p>3. ここまでの振り返りをする(25分)</p>
<p>まとめ</p> <p>「ぜんぶで」「みんなで」は、たし算の式で表すことができます。</p>	
<p>かあどをつかって</p> <p>4. 「カードを使って計算の練習をしましょう。」</p> <p style="padding-left: 40px;">・ひとりで ・ともだちと</p> <p>5. 「みんなと一緒に考えていきましょう。」</p> <p>下段のようにカードを貼る。</p> <p style="padding-left: 40px;">『階段みたいに並んでいるね。』</p> <p>「(カードを一部抜いて) 抜いたところにはどんな式が入りますか。」</p> <p style="padding-left: 40px;">『上から順番だから…。』『横に見ると…。』</p> <p>「答えが○のカードはどれですか。」</p> <p style="padding-left: 40px;">『他にもあるよ。』『斜めに並んでいるよ。』</p>	<p>3. P9のようにひとりで問題を解いたり、ともだちと問題を出し合ったりする。(30分)</p> <p>4. 同じ答えになるたし算はいくつかあるという見方、1つの数を2つの数の和としてみる見方…を育てる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・文章題を読み、言葉に着目して場面を捉えさせましょう。「あわせていくつ(合併)」と「ふえるといくつ(増加)」がどちらもたしざんになることもおさえましょう。
- ・ゲームを通して、計算能力を高めましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

- ・題意に沿ってブロックを操作させたり、カードを規則的に並ばせたりする活動も大切です。

たすといくつ

しきとこたえ

けいさん



目標

・0を含む加法の式の意味を考えることができる。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P10の絵を見て場面を捉えさせる。時間があれば、簡単に同じようなゲームをする。</p> <p>「どんなゲームをしているのかな。」</p> <p>『玉を3個投げて…。』</p> <p>□1 ねこが入れた数はいくつですか。絵を見て式に書きましよう。」</p> <p>『2回目は一つも入っていないよ。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">1個も入らないことをたし算で表せるかな。</div> <p style="text-align: center;">$2 + 0 = 2$</p> <p>2. 問題に取り組む。</p> <p>□2 いぬが入れた数は、$0 + 3$の式になります。どのように入ったのでしょうか。</p> <p>『はじめに0があるよ。』</p> <p>かごの中に、●を書きましょう。</p> <p>3. 練習問題に取り組む。</p> <p>△3 「どのように入ったのでしょうか。かごの中に●を書きましょう。」</p> <p>4. 振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">0もたしざんができる。</div>	<p>1. どんな場面かを話し合おう。</p> <p>実際に活動させると理解が深まる。(15分)</p> <p>2. 玉が入っていない状態を「0個」ということをおさえる。(25分)</p> <p>3. 式に書かれた数字の意味を一つずつ捉えさせる。(35分)</p> <p>4. 0を含むたし算の意味を理解する。(45分)</p>

II 指導のポイント

・ゲームのような場面を実際に経験させることで、0を含む計算を理解させましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・時間があれば、玉入れを実際に行うと、問題場面が把握しやすくなり、0を含むたし算の必要性も感じさせることができます。

0のたしざん

絵・式・答え

まとめ

目標

・絵を見て加法の場面を捉え、式に合う問題を考えることができる。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P11の絵を見て、どんな場面か話し合う。 「絵を見て、気づいたことを言いましょう。」 『公園で遊んでいる。』 『〇〇がいる。』『〇〇がある。』『〇四いる。』『〇つある。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">4 + 3の式になる問題をつくりましょう。</div> <p>1. 例を参考にお話を作る。 「例を見て、お話をつくりましょう。」 『全部で〇〇です。』『合わせて〇〇です。』 「つくったお話に合わせ、ブロックを動かして確かめましょう。」</p> <p>『アヒルが池の中に4羽います。池の周りに3羽います。合わせて7羽です。』(合併) 『子どもが4人遊んでいました。3人来ました。みんなで7人です。』(増加)</p> <p>2. 自分でつくったお話を発表する。</p> <p>まとめ 4あるもの、3あるものを探し、「全部で」「合わせて」「みんなで」とすると、問題をつくることができます。</p>	<p>1. 絵を見て、自由に話をする中から、数に着目させ、加法の場面としてのお話づくりをさせていく。 (10分)</p> <p>2. 例文のように3つの文に区切ることを伝える。 (15分)</p> <p>1. 絵を見て、4あるもの、3あるものという条件に合うものを探させる。 (20分)</p> <p>4. 「ぜんぶで」「あわせて」「ふえると」の言葉を使うことを意識させる。(35分)</p> <p>5. さまざまな場面を取り上げて紹介する。(40分)</p> <p>6. 振り返りをする。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・お話づくりをさせることによって、式と文章題を結びつけ、加法の意味理解を深めさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・数値に着目させ、日常の具体的場面を、加法の場面としてお話を考えさせましょう。

もんだいづくり

絵を見て気づいたこと

子どもの考えた問題

まとめ

目標

・「のこりはいくつ (求残)」の場合を減法として捉えることができる。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P14 へる 「絵を見てブロックを動かしましょう。」</p> <p>□1 「5ひきいました。2ひきすくいました。のこりは3ひきになりました。」</p> <p>「5から2をとると3になります。このことを式で$5 - 2 = 3$と書きます。」</p> <p>3. △2 「絵を見て式に書きましょう。ブロックを動かしましょう。」</p> <p>4. △3 「4-1の式になる絵はどれですか。」</p> <p>まとめ 「5-2や4-3のような計算を引き算と言います。」</p> <p>5. □4 「どんなお話ですか。式と答えを言いましょう。」</p> <p>6. △5 「式に書いて答えましょう。」</p>	<p>1. 具体物(実物や絵)を使って問題把握する。 →シート① (15分)</p> <p>ブロックではじめの数をしっかりと置き、その後、数を取り去るという操作をしっかりと行う。</p> <p>3. 理解を定着させる。 →シート①② (35分)</p> <p>4. 理解を定着させる。 →シート①② (45分)</p>

II 指導のポイント

・この単元は「のこりはいくつ (求残)」「全体から部分を求める (求補)」「ちがいはいくつ (求差)」という状況が、共に減法で表すことができることを学習します。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

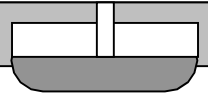
・ブロックなどを使い、言葉で表しながら操作させ、ひき算の式の内容を理解させましょう。

のこりはいくつ

しきとこたえ

ブロックをはる

まとめ



月

日()

時間目 名前

①のこりはいくつかな。

ぶろっくをおいて、せつめいしながらうごかしましょう。

きんぎょ・じどうしゃ・てんとうむし

②しきにかいてこたえましょう。

[きんぎょ] 5から2をとると、3になります

しき $5 \square - 2 \square = 3$

5 ひく 2 は 3

こたえ 3 びき

[じどうしゃ]

しき $4 - 3 = \square$

こたえ \square だい

[てんとうむし]

しき \square

こたえ \square

目標

・「全体から部分を求める（求補）」の場合も求残と同様に減法の関係として捉えることができる。
(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. △6 「ノートに式を書いて、ひき算をしましょう。」</p> <p>2. □7 「どんなお話かな。」 『白いウサギと黒いウサギがいるよ。』 「問題を読みましょう。」 「ブロックを動かして説明しましょう。」 「ひき算をつかって答えをだせるかな。」 「式を書いて答えましょう。」 8 - 3 = 5 5ひき</p> <p>3. △8 「問題を読みましょう。」 「ブロックを動かして説明しましょう。」 「式を書いて答えましょう。」 9 - 4 = 5ほん</p> <p>まとめ 「全体」から「部分」を求めるときは、ひき算の式で表すことができます。</p>	<p>1. 早く終えた子にはブロックで確かめるよう指示する。(15分)</p> <p>2. 求補の場面を捉え、立式する。(25分) →シート ブロック操作から、減法の式に表し、同じようにひき算で表せることを知らせる。</p> <p>3. ブロックを操作し、全体と部分の関係を捉えさせる。(35分) →シート</p>

II 指導のポイント

・求補の問題の文章題です。場面を捉え、ブロック操作を通して、「へる」場面の操作と同じことに気付かせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・ブロックを操作し、前時の「求残」と本時の「求補」の違いを捉えさせるとともに、どちらも減法の問題であることに気付かせましょう。

ひくといくつ

しきとこたえ

けいさん



月

日()

時間目 名前

①のこりはいくつかな。

ぶろっくをおいて、せつめいしながらうごかしましょう。

くろいうさぎ

②しきにかいてこたえましょう。

〔くろいうさぎ〕 8から3をとると、5になります

しき $8 - \square = \square$

8 ひく 3 は 5

こたえ \square ひき

〔かさ〕

しき $\square - \square = \square$

こたえ \square ほん

目標

- ・被減数が10までの減法計算ができる。(知識・技能)
- ・0を含む減法の式の意味を考えることができる。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「カード使って計算の練習をしましょう。」</p> <p>2. P18のようにカードを貼る。 『階段みたいに並んでいるね。』 「(カードを一部抜いて) 抜いたところにはどんな式が入りますか。」 『上から順番だから…。』『横に見ると…。』 「答えが○のカードはどれですか。」 『他にもあるよ。』『斜めに並んでいるよ。』</p> <p>3. 「残りのカードは何枚ですか。□に数を入れましょう。」 「1個も残らない」「1個もとらない」ことをひき算で表せるかな。 $3-1=\square$ $3-\square=\square$ $3-\square=\square$ $3-\square=\square$ </p> <p>4. △2 「ひき算をしましょう」</p> <p>まとめ 「1個もとらない」「何もない」ことは0とあらわして、ひき算ができる。</p>	<p>1. P18のようにひとりで問題を解いたり、ともだちと問題を出し合ったりする。(20分)</p> <p>2. 数に対する柔軟な見方を引き出す。(30分)</p> <p>加法と同様に、同じ答えになるひき算はいくつかあるという見方、1つの数を2つの数の差としてみる見方…を育てる。</p> <p>3. 0を含むひき算の意味を理解する。 (40分)</p> <p>4. 理解を定着させる。 (45分)</p> <p>→シート</p>

II 指導のポイント

- ・ゲームを通して計算能力を高め、0を含む減法の意味を理解させましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

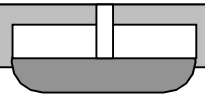
- ・カードを使った練習は、他にも様々な方法があります。工夫して、楽しみながら取り組ませましょう。

かあどをつかって

のこりはなんまい

カードをはる

式・答え



月

日()

時間目

名前

ひきざんをしましょう。

$5 - 5 =$

$6 - 0 =$

$0 - 0 =$

目標

・「ちがいはいくつ (求差)」の場合も求残、求補と同様に減法の関係として捉えることができる。
(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「何をしているところですか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ちがいはいくつかな。</div> <p>『黄色は8まい。』『緑は5まい。』 『この分だけ多いよ。』『これもひき算だね。』 $8 - 5 = 3$ 3まい △2 「何匹多いかな。」 「ブロックを置いて考えましょう。」 『この分だけ多いよ。』 $6 - 4 = 2$ 2ひき</p> <p>2. □3 「どちらが何本多いかな」『多い方から少ない方をひくんだね。』 $8 - 7 = 1$ あかいはなが1ほん多い</p> <p>△4 「どちらが何ひき多いかな」 「ブロックを置いて考えましょう。」 $9 - 3 = 6$ おすが6ひき多い</p> <p>3. □5 「かずのちがいは何個かな。」 「ブロックを置いて考えましょう。」 $8 - 6 = 2$ 2こ</p> <p>△6 「かずのちがいは何個かな。」 「ブロックを置いて考えましょう。」 $7 - 6 = 1$ 1こ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 「ちがいはいくつ」はひき算の式で表すことができます。</p> </div>	<p>1. 絵を見て問題場面を把握する。 →シート (15分) 1対1対応させる。 ブロックの色を変える、差の部分に区切りをつけるなどして差の部分明確になるようにする。</p> <p>2. 数の多い方から少ない方を引くことを理解させる。→シート (30分)</p> <p>3. 数の違いを聞かれているので違いの数だけで答えることをおさえる。 →シート (45分)</p>

II 指導のポイント

・文章題に出てきた数字の順に立式するのではなく、ブロック等を用いて、どの部分が差になるかを捉え、多い方から少ない方を引くことに気付かせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・ブロックを2段に並ばせるなどして、1対1対応を捉えられるようにしましょう。

ちがいはいくつ

しきとこたえ

ブロックをはる

まとめ



月

日()

時間目 名前

ちがいはいくつかな。

ぶろっくをおいて、うごかしてかんがえましょう。

○きいろ みどり

○あかきんぎょ くろきんぎょ

○あかいはな しろいはな

○めす おす

○いちごけえき ちょこけえき

○あかぼうし しろぼうし

まとめ

「ちがいは いくつ」は、ひきざんで あらわすことができます。

目標

・絵を見て減法の場面を捉え、式に合う問題を考えることができる。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P24の絵を見る。 「絵を見て、気づいたことを言いましょう。」 『公園で遊んでいる。』 『〇〇がいる。』『〇〇がある。』『〇匹いる。』『〇つある。』</p> <p>6-4の式になる問題をつくりましょう。</p> <p>1. 例を参考にお話を作る。 「例を見て、お話をつくりましょう。」 『ちがいは〇〇です。』『のこりは〇〇です。』 「つくったお話に合わせ、ブロックを動かして確かめましょう。」</p> <p>『小さいチョウが6匹、大きいチョウが4匹、ちがいは2匹です。』(求差) 『子どもが6人ジャングルジムにいました。4人帰りました。のこりは2人になりました。』(求残)</p> <p>3. 自分でつくった問題を発表する。</p> <p>4. まとめ 6あるもの、4あるものを探し、「ちがいは」「のこりは」をつかうと、引き算のお話をつくることができます。</p>	<p>1. 絵を見て、自由に話をする中から、数に着目させ、減法の場面としてのお話づくりをさせていく。 (10分)</p> <p>2. 例文のように3つの文に区切ることを伝える。 (15分)</p> <p>3. 絵を見て、6あるもの、4あるものという条件に合うものを探させる。(20分)</p> <p>4. 「ちがいは」「のこりは」の言葉を使うことを意識させる。(35分)</p> <p>5. さまざまな場面を取り上げて紹介する。(40分)</p> <p>6. 振り返りをする。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・お話づくりをさせることによって、式と文章題を結びつけ、減法の意味理解を深めさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・数値に着目させ、日常の具体的場面を、減法の場面としてお話を考えさせましょう。

もんだいづくり

絵を見て気づいたこと

子どもの考えた問題

まとめ

目標

・直接比較の条件や間接比較の方法を考えることができる。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">長さは、どのようにして比べたら良いのかな</p> <p>□1 ①「どちらが長いかな、予想しましょう。」</p> <p style="padding-left: 40px;">『〇〇が長いと思うよ。』 『鉛筆は端が隠れているから……。』 『曲がっていて分かりにくい……。』</p> <p style="padding-left: 40px;">『端をそろえて比べないと分からないよ。』 『リボンはまっすぐに伸ばさないと比べられないよ。』</p> <p style="padding-left: 40px;"><長さのくらべかた> 「はしをそろえる」「まっすぐにのばす」</p> <p>2. ②「たてと横では、どちらが長いかな、予想しましょう。」</p> <p style="padding-left: 40px;">『紙は折って並べられるよ。』 『ケースは並べたり、重ねたりできないよ……。』</p> <p style="padding-left: 40px;"><長さのくらべかた> 「おってかさねる」「テープにうつしとる」</p> <p>3. まとめ 長さのくらべ方 「はしをそろえる」「まっすぐにのばす」 「おってかさねる」「テープにうつしとる」</p>	<p>1. どれが長いか予想し、比べ方を考える。(20分)</p> <p>見ただけではどれが長いのかはっきりとしないことから、考えを引き出す。</p> <p>2. 「たて」「横」の位置を確かめさせる。</p> <p>3. ケースは折って重ねられないので、テープに長さを写とって比べることを確認する。(40分)</p> <p>4. 振り返りをする。(45分)</p>

II 指導のポイント

・見ただけでは長さが分からないことから、長さを比べる条件や方法を考えさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・長さを写し取る方法を色々と考えさせ、試させた上で、テープに印をつける方法の良さに気づかせましょう。

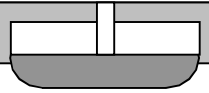
どちらがながい

えんぴつ

すとりお と りぼん

かみ と いろえんぴつ

まとめ



目標

直接比べることができないものの長さの比べ方を考えることができる。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「教室にある物の長さをテープに写し取って比べましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>テープを使って長さ比べができるかな。</p> </div> <p>『テープを端から端まであてて切るといい。』 『何の長さを調べようかな。』 『〇〇と、△△ではどっちが長いかな。』</p> <p>2. 「調べたテープを模造紙に貼りましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇のたかさ ・〇〇のふかさ ・〇〇のはば ・〇〇のよこ … <p>3. 「調べた長さを発表しましょう。」</p> <p>『〇〇は長いね (短いね)。』 『〇〇と△△の長さを比べると…。』</p> <p>まとめ テープを使うと、いろいろな物の長さを上手に比べることができる。</p>	<p>1. 身のまわりの長さに興味を持たせ、長さの比較に取り組ませる。 (15分)</p> <p>→シート</p> <p>2. 模造紙などに、調べた物の名前とテープを貼る。 (30分)</p> <p>3. 調べた物、比べた結果、感想を発表する。 (45分)</p> <p>日常で「深さ」「高さ」「はば」と表現しているものも取り上げ、「長さ」として一般化する。</p>

II 指導のポイント

・動かすことができない部分の長さも、テープを使うと比べられることを実感させましょう。

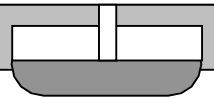
III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・測る前に、どっちが長いかな予想させながら調べると興味をもった意欲的な活動になる。

いろいろなもののながさ

調べた物のテープをはる

まとめ



目標

単位の大きさを決めて、そのいくつ分として長さを捉えることができる。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □3 「どんな方法で長さを調べているのかな。」 『指の幅で数えている。』 『鉛筆何本分かで調べている。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>長さを数で表すことができるかな。</p> </div> <p>「いろいろな机の長さを数で表しましょう。」 『何を使って数えようかな。』 『大きな机でも基にする長さが大きいと、少ない数になる。』 『基にする長さが同じだと、机の大きさが比べられる。』</p> <p>2. △4 「どちらが長いでしょうか。」</p> <p>3. △5 「それぞれますのいくつ分の長さですか。」「～と～ではどちらがますのいくつ分長いですか。」</p> <p>まとめ 長さを数で表すには、「何がいくつ分」の長さかを調べるとよい。 (任意単位による測定)</p>	<p>1. テープではなく「いくつ分」かを数えていることを確かめる。実際に教室にある机を自分で決めた単位で調べる。 (15分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>指や鉛筆など基準にする大きさ（任意単位）が人によって異なると不便であることに気づかせる。</p> </div> <p>2. 数を書かせ「いくつ分」を定着させる。 (20分)</p> <p>3. マス目の数で「どちらが長いか」「どれだけ長いかが分かることを捉える。 (35分)</p> <p>→シート (45分)</p>

II 指導のポイント

・数で長さを比べると、「長さがいくつ分違うか」も表すことができることに気付かせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・測定する対象の大きさに合わせた、ちょうど良い長さの指や鉛筆などの任意単位を選択させて調べさせましょう。

ながさをかずであらわそう

つくえのながさ
〇〇でいくつぶん
△△でいくつぶん

まずでいくつぶん

まとめ



目標

・簡単な事柄を分類整理して絵や図に表したり、読みとったりすることができる。

(知識・技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P32 「つりげえむをしました。何が多いですか。」 『イカは少なそう。』 『かには多そう。』</p> <p>「どうしたら数がわかりやすくなるかな。整理の仕方考えましょう。」</p> <p>2. 「釣ったものを並べました。何がわかりやすくなりましたか。」</p> <p>3. 絵グラフに色を塗り、整理の仕方を見出す</p> <p>3. ふりかえる。</p> <p>まとめ 絵や図にまとめると、多いところや少ないところ、数の違いなどがわかりやすい。</p>	<p>1. さし絵を見ながら話し合い、学習への興味を高める。 (15分)</p> <p>2. 端を揃えて見やすくなった、数がわかりやすくなったという意見を取り上げる。</p> <p>2. 絵グラフから分かることを読み取る。 (30分)</p> <p>数の多少が、一目見るだけで分かりやすいことに気づかせる。</p> <p>3. 図(表)に整理すると、数が分かりやすいことを捉えさせる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・絵や図に整理すると、多い・少ないや、数の違いがわかりやすくなることを捉えさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・身近にあるものを工夫して利用し、絵や図に整理する活動を行い、絵や図に表すことの有用性を実感させましょう。

わかりやすくせいりしよう

教科書 P32上段の写真

教科書 P32下段の写真

教科書 P33の絵グラフ

まとめ



目標 ・20までの数を10といくつと捉えることができる。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「どんぐりの数を数えましょう。」 どう工夫すると数えやすいかな。</p> <p>「ブロックの数を、いくつあるか分かりやすく置き直しましょう。」</p> <p>『10のまとまりをつくといいよ。』</p> <p>2. 「《10といくつで、じゅういくつ》と言いましょう。」</p> <p>『10と3で13 (じゅうさん)。』</p> <p>『10と6で16 (じゅうろく)。』</p> <p>3. P38~39下段を見て、20までの数を数える。</p> <p>『10と1で11』</p> <p>『10と2で12』</p> <p>『10と3で13』・・・</p> <p>まとめ</p> <p>10より大きい数は、10のまとまりをつくと数えやすい。</p>	<p>1. 教科書の絵を見て、10より大きい数の見当をつけさせ、数を数えようとする意欲づけを図る。(30分)</p> <p>→ シート</p> <p>2. 10といくつに分けるとそのまま「じゅういくつ」と言えることに気づかせる。(35分)</p> <p>「10といくつで、じゅういくつ」を唱える練習をする。</p> <p>3. 10のまとまりと端数に着目して、20までの数の数え方を練習する。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・「10のまとまりと端数がいくつ」と捉えさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

- ・教科書の絵の上に1個ずつブロックを置いて、いくつあるか分かりやすく置き直す操作をさせましょう。
- ・ブロックがない場合は、厚紙で小さな正方形を作って代用することもできます。

かずをかぞえましょう

教科書 P37 図示

教科書 P38～39

まとめ



月

日()

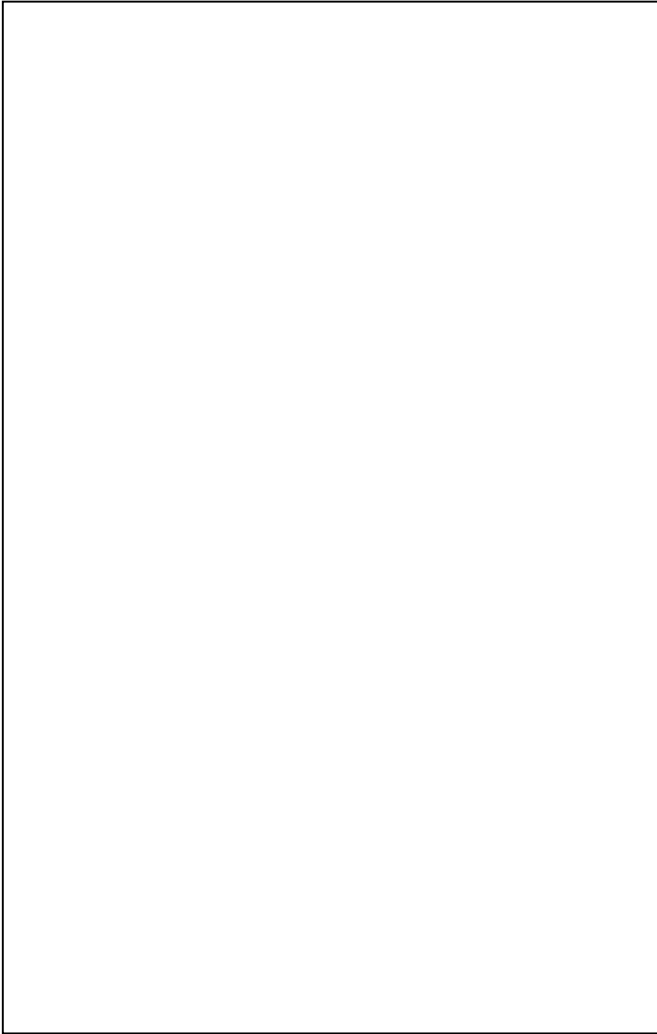
時間目

名前

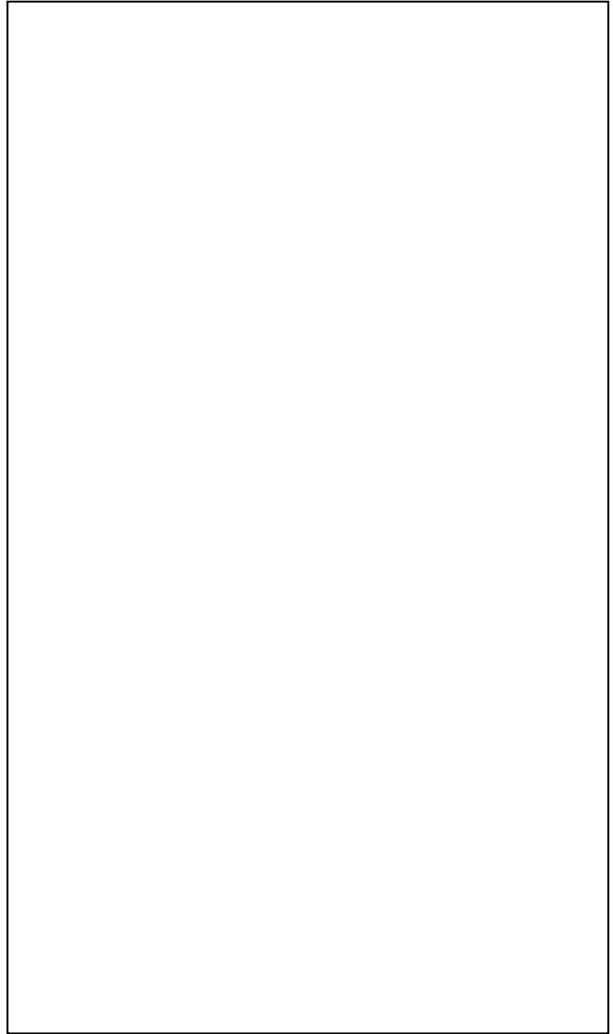
どんぐりはいくつ？

◎ぶろっくをならべかえて、かぞえましょう。

①まさしさん



②みきさん



まとめ

- ・ 「10」と「いくつ」で「じゅういくつ」といいます。

目標

- ・20までの数を10といくつという構成で表されていることを捉えることができる。
(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □2「あめの数を数えましょう。」 『10のまとまりを囲んでいるよ。』 『数えた部分に印をつけているよ。』 『10のまとまり1つと9で《じゅうく》。』 「《じゅうく》を数字で書きましょう。」 10より大きい数はどう書くのかな。</p> <p style="text-align: center;"><u>19</u></p> <p>「たまごの数を数えましょう。」 『10のまとまりを囲もう。』 『数えた部分に印をつけよう。』 『10のまとまり2つで《にじゅう》。』 「《にじゅう》を数字で書きましょう。」</p> <p style="text-align: center;"><u>20</u></p> <p>2. P38~39下段「教科書の□に14から20までの数を書きましょう。」</p> <p>3. ノート、シートに20までの数を書く練習をする。</p> <p>まとめ 20までの数は、「10のまとまりがいくつ」を左に、「ばらがいくつ」を右に書きます。</p>	<p>1. 10といくつという見方をさせる。 (15分) →シート①</p> <p>19を109のように書く児童に対しては「10といくつ」の見方に戻って理解させるとよい。</p> <p>2. 10~20まで書いた数カードを用意しておく (30分)</p> <p>3. 「教室の物の数調べ」 「教師の行った数を書く」など興味を持たせたり、習熟を図ったりするのも良い。 (45分) →シート②</p>

II 指導のポイント

- ・20までの数について、10のまとまりと1位数という構成をもとに表されていることを理解させます。

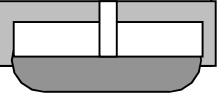
III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

- ・身のまわりの物を数えさせることで、物の個数に興味をもたせましょう。

かずをかぞえましょう

教科書 P38～39 図示

まとめ



月

日()

時間目 名前

①あめはいくつ？

◎すうじでかいてみましょう。

10と9で「じゅうく」

たまごはいくつ？

◎すうじでかいてみましょう。

10と10で「にじゅう」

②10から20までよんで、かきましょう。

◎よんでみましょう。

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

◎かいてみましょう。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

まとめ

- ・「10」と「いくつ」で「じゅういくつ」といいます。
- ・「じゅういくつ」は「1」をひだりに、「いくつ」をみぎにかきます。

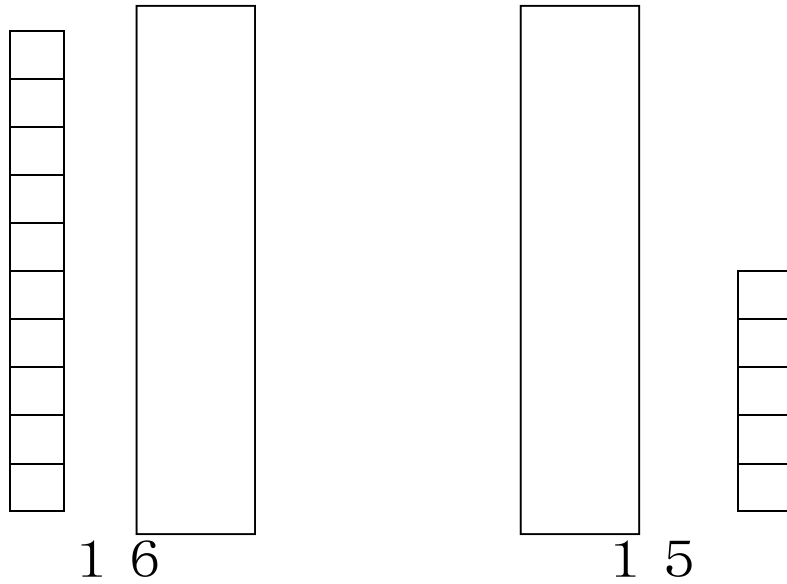
月

日()

時間目 名前

かくれているかずはいくつですか。

◎かくれているぶろっくをかきましょう。



◎ () にあてはまるかずをかきましょう。

16は、

10と()だから、

() かくれている。

15は、

() と5だから、

() かくれている。

目標

・20までの数を10といくつという構成で表されていることを捉えることができる。
(知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. △3①～④「数を数えましょう。」</p> <p>間違えずに数えるためにはどんな工夫があるかな。</p> <p>①～④</p> <p>『10のまとまりと、あといくつを数えるとよい。』</p> <p>『10のまとまりを囲むとよい。』</p> <p>『2・4・6…と数えると早い。』</p> <p>『5・10・15…と数えると早い。』</p> <p>2. □4「何人ならんでいますか。」「ゆかさんは、前から何人目ですか。」「何人…は全部の人の数だよ。』</p> <p>『何人目…は順番のことだよ。』</p> <p>3. P41「数当てゲームをしましょう。」</p> <p>かくれている数はどう考えたら分かるのかな。</p> <p>『13は10と3だから…。』</p> <p>□5「かくれている数はいくつでしょう。」</p> <p>4. △6「□にかずを書きましょう」</p> <p>まとめ</p> <p>数えやすいようにするためには、印をつけたり、10のまとまりを囲んだり、2ずつや5ずつ数えるたりするとよい。</p> <p>「10といくつ」の考えを使えば、かくれている数が分かる。</p>	<p>1. 10といくつという見方をさせる。ばらばらに並んでいて数えにくい場合の工夫を考えさせる。 (10分)</p> <p>2. 2・4・6…や、5・10・15…といった数え方は声に出して練習し、慣れさせる。(20分)</p> <p>3. 集合数と順序数の違いを理解させるために、ゆかさん以外も取り上げたり、後ろから何人目かを考えたりする。</p> <p>4. 自分たちで作った問題を出し合い、かくされたブロックの数をあてる活動を行うことで、習熟を図るとよい。 (30分)</p> <p>5. 「16は10と6だから…」と説明させ、「10といくつ」の構成に着目させる。</p> <p>6. 「16は1と6」などのつまずきが見られるときはブロック操作で考えさせるとよい。(45分)</p> <p>→シート</p>

II 指導のポイント

・「落ちや重なりなく、正確に数える」ことを意識させましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・バラバラで数えにくいものを10のまとまりで囲むなどの作業を通じて数えさせましょう。

かずをかぞえましょう

教科書 P40

教科書 P41

まとめ



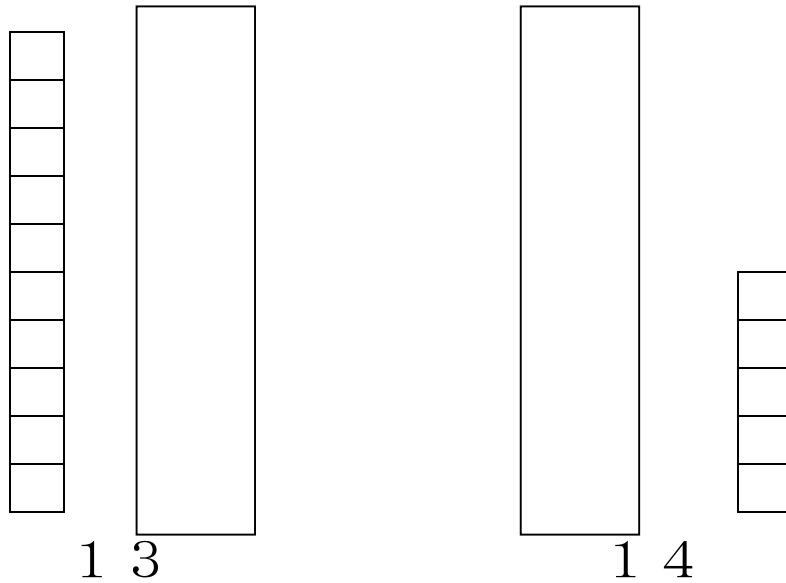
月

日()

時間目 名前

かくれているかずはいくつですか。

◎かくれているぶろっくをかきましょう。



1 2は、

1 0と()だから、

()かくれている。

1 1は、

()と1だから、

()かくれている。

◎ () にあてはまるかずをかきましょう。

目標

・数直線を手がかりにして20までの数の大小や系列を考えることができる。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □7 「数の線を使って考えましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>数の線でどんなことが分かるかな。</p> </div> <p>「3匹はどれだけ進んだかな。」 『カエルは1進んだ。』『ネコは7進んだ。』『ウサギは12進んだ。』</p> <p>△8 「大きいほうに○をつけましょう。」 「数の線で $11 \cdot 9$、$17 \cdot 19$、$20 \cdot 12$ はどこかな。」 「数の線では右にある数字と左にある数字ではどちらが大きいでしょう。」 『右にある方が大きい。』</p> <p>△9 「□に当てはまる数を書きましょう。」 「数の線を見て考えましょう。」</p> <p>△10 「次の数はいくつでしょう。」 「数の線で、大きい・小さいはどっちに進むのかな。」</p> <p>△11 「声に出して言いましょう。」</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の線は0から始まる。 ・右に1めもり行くと1大きくなる。 ・左に1めもり行くと1小さくなる。 </div>	<p>1. 数直線を見て、数を数直線上で押さえながら考えさせる。 (30分)</p> <p>数が数直線上に表されること、数の大小と、数直線上の方向の関係を理解させる。</p> <p>$2 \cdot 4 \cdot 6 \dots$や、$20 \cdot 19 \cdot 18 \dots$といった数え方は声に出して練習し、慣れさせる。</p>

II 指導のポイント

・数の線(数直線)の0は、「はじまり」の意味であり、「何もない」の意味の0とは異なることをおさえましょう。

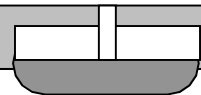
III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・数直線上に数を位置付けて考えることによって、数の大小や並びを理解させましょう。

かずのせん

図示 (数の線)

まとめ



目標

・20までの数について、その数の構成に着目して、計算の仕方を考える。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □1 「□に数を書きましょう。ブロックや数の線を見て考えましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>20までの数のたし算やひき算はどのように考えるのかな。</p> </div> <p>① $10 + 5 = \square$ 『10と5で15。』(ブロックで) 『10から5大きくなると15。』(数直線を見て)</p> <p>② $15 - 5 = \square$ 『15から5をとって10。』(ブロックで) 『15から5小さくなると10。』(数直線を見て)</p> <p>△2 「□はいくつですか。」 △3 「たし算、ひき算をしましょう。」</p> <p>2. □4 「□に数を書きましょう。ブロックや数の線を見て考えましょう。」</p> <p>① $12 + 3 = \square$ 『2と3で5、10と5で15。』(ブロックで) 『12から3大きくなると15。』(数直線を見て)</p> <p>② $15 - 3 = \square$ 『5から3をとって2、10と2で12。』(ブロックで) 『15から3小さくなると12。』(数直線を見て)</p> <p>△5 「たし算、ひき算をしましょう。」</p> <p>まとめ 20までの数のたし算は「10といくつ」の考え方で分かる。</p>	<p>1. 前單元までの10以内の数の和や差に対して、ここでは10を超えた和や差を扱う。 (20分)</p> <p>20までの数の構成を、和や差で捉えることができるようにする。→シート①</p> <p>2. 数の構成や、数直線による数の大小に着目して、計算の仕方を考える。 (45分)</p> <p>→シート②</p>

II 指導のポイント

・20までの数について、

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・数直線上に数を位置付けて考えることによって、数の大小や並びを理解させましょう。

月 日() 時間目 名前

①たしざん ひきざん をしましょう。

$$10 + 7 = \square \quad 10 + 4 = \square \quad 10 + 8 = \square$$

$$17 - 7 = \square \quad 19 - 9 = \square \quad 16 - 6 = \square$$

②たしざん ひきざん をしましょう。

$$12 + 4 = \square \quad 14 + 3 = \square \quad 13 + 5 = \square$$

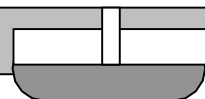
$$17 - 5 = \square \quad 19 - 4 = \square \quad 18 - 2 = \square$$

たしざんとひきざん

しき

図示 (ブロック・数の線)

まとめ



目標

・40までの数について、その数の構成に着目して、計算の仕方を考える。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「数を数えましょう。」 「卵や数え棒は、今までと同じように数えられそうですか」 「20より大きい数を数えましょう。」 『卵は20と3で23。』 『数え棒は20と6で26。』 『色紙は10が3つで30。』 『ペンは30と4で34。』</p> <p>2. △2 「数を数えましょう。」 「20より大きい数を数えるときには、どのように考えて表せばいいかな。数え棒の数を数えましょう。」</p> <p>3. △3 「カレンダーの数を読みましょう。」 「カレンダーには、20より大きい数があります。読んでみましょう。」</p> <p>まとめ 「10がいくつ」と「ばらがいくつ」でかぞえます。</p>	<p>1. 「10といくつ」という見方と同様に「20といくつ」という表し方に気付かせる。 (15分) →シート①</p> <p>2. 「10が3つで30」とすることを確認する。</p> <p>1. ばらの10本が10本の束1つと同じであることがとらえやすいように、ばら10本を束にする操作を実際にさせたり、演示したりして理解させる。</p> <p>2. 数の構成を活用し、40までの数を数えるなどの過程を振り返り、生活につながるようにする。</p> <p>3. 10のまとまりがいくつとばらがいくつという考えで数を表すことをまとめる。</p>

II 指導のポイント

・40までの数について、「10がいくつ」と「ばらがいくつ」で表すことを数え棒などの半具体物などを操作させるなどして、理解させましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・数え棒を数えたり、カレンダーを読んだりする活動を通して、数をとらえて表す良さを感じさせましょう。

かずをかぞえましょう

図示

図示

まとめ



目標

・時計を見て、何時、何時半を読み取ったり、合わせたりできる。(知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P48・49の絵を見て話し合う。</p> <p>「どんな場面かな。」</p> <p>『〇〇をしているところだよ。』</p> <p>『ぼくは、このころは～しているよ。』</p> <p>『わたしは、〇時に～をしているよ。』</p> <p>「どんなときに時計を見るかな。」</p> <p>『〇〇するときに確かめるよ。』</p> <p>時計はどのように読むのかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>2. 「とけいのよみかた」の説明を読む。</p> <p>『短い針から読むんだね。』</p> <p>『短い針が間の時は、小さい方を読むんだね。』</p> <p>『長い針が12のときは〇時、6のときは〇時半と読むんだね。』</p> <p>□1、△2「時計を読みましょう。」</p> <p>□3「時計の針を合わせましょう。」</p> <p>△4「9時半の時計はどれですか。」</p> </div> <p>3. 時計を使って、各自の1日の様子を話してみよう。</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計は短い針から読む。間の時は、小さい方を読む。 ・長い針が12のときは、〇時。 ・長い針が6のときは、〇時半。 	<p>1. 絵を見て、自由に話し合いながら、時刻の読みへと興味を持たせる。</p> <p style="text-align: right;">(10分)</p> <p>時計の読み方は、生活経験によって、個人差があるので、丁寧に指導する。</p> <p>2. 時計の読み方を理解させた後、模型の時計で問題を出し、時刻を言ったり、合わせたりする練習をする。</p> <p style="text-align: right;">(35分)</p> <p>3. 理解を定着させる。</p> <p style="text-align: right;">(45分)</p>

II 指導のポイント

・長針が動くにつれ短針も動き、何時半のときには、間になる様子に気付かせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

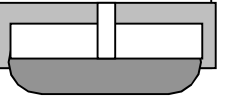
・日常生活や学校生活と関連させて、読んだり、合わせたりする活動をさせましょう。

とけいのよみかた

図示 (なんじ)

図示 (なんじはん)

まとめ



目標

- ・2つの数の加法、減法の考え方をを用いて、3つの数の加法、減法の計算のしかたについて考える。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「3枚の絵と同じように表してみましよう。」</p> <p>□1 「ねこは全部で何匹になりましたか。式を書きましよう。」 『$3 + 2 = 5$ $5 + 4 = 9$』</p> <p>2. 「3つの数のたし算は$3 + 2 + 4$と1つの式で表すことができます。」</p> <p>3つの数の計算のしかたを考えましよう。</p> <p>「ブロックで答えを確かめましよう。」 『2つの式で計算したときと答えは同じだね。』</p> <p>3. △2 「計算しましよう。」</p> <p>4. □3 「ねこは何匹残っていますか。1つの式で書きましよう。」 『減っていくからひき算だね。』 『$9 - 1 - 3$』 「ブロックで答えを確かめましよう。」</p> <p>5. △4 「計算しましよう。」</p> <p>まとめ 3つの数のたし算やひき算は、1つの式で表され、前から順に計算する。</p>	<p>1. バスの絵を見て、電車ごっこのように体を使って説明し、題意を捉え、式に表す。 (5分)</p> <p>2. 1つの式で表せることを理解させる。 →シート① (15分) ブロック操作と関連づけて、2つの式と1つの式では答えが同じになることを理解させる。</p> <p>3. 理解を定着させる。 (20分)</p> <p>4. ひき算もたし算同様、1つの式で表してよいことを理解させる。 →シート② (40分)</p> <p>5. 理解を定着させる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・前から順に計算すると、途中、最初の2つの数の計算の答えを覚えておくことが必要である。途中で書いておくなどの工夫をさせましよう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

- ・ブロックを用いて、場面を説明しながら操作させることで式の意味を捉えさせましよう。

ふえたり へったり

みんなで何匹

残りは何匹

まとめ



月

日()

時間目 名前

①ねこはみんなでなんびきになりましたか。

おはなしにあわせてぶろっくをおいてうごかしましょう。

$$3 + 2 + 4 = 9$$

②ねこはなんびきのこっていますか。

おはなしにあわせてぶろっくをおいてうごかしましょう。

$$9 - 1 - 3 = 5$$

目標

- ・2つの数の加法、減法の考え方をを用いて、3つの数の加減混合の計算のしかたについて考える。
(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □5 「ねこは何匹になりましたか。1つの式で書きましょう。」</p> <p>たし算・ひき算の混じった3つの数の計算のしかたを考えましょう。</p> <p>『増えたら＋、減ったら－だよ。』 『＋と－が混じってもいいのかな。』 『$5 - 3 + 4$』 「ブロックを動かして答えを確かめましょう。」</p> <p>2. △6、△7 「計算しましょう。」</p> <p>3. △8 「計算しましょう。」</p> <p>まとめ</p> <p>3つの数の計算は、たし算やひき算が混じっても1つの式で表され、前から順に計算する。</p> <p>4つの数の計算も、前から順に計算する。</p>	<p>1. 題意を捉え、立式する。 →シート① (15分)</p> <p>乗ったり降ったりが混在しているが、ブロックを操作し、1つの式にしてもよいことを理解させる。 (25分)</p> <p>2. 理解を定着させる。 (35分)</p> <p>△8では、4つの数の計算も考えさせる。途中の答えを書いておくなどの工夫をさせる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・前から順に計算すると、途中、最初の2つの数の計算の答えを覚えておくことが必要である。途中で書いておくなどの工夫をさせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

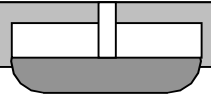
- ・ブロックを用いて、場面を説明しながら操作させることで式の意味を捉えさせましょう。

なんびきになったかな

おはなし・ブロック

式と答え

まとめ



月

日()

時間目

名前

①ねこはなんびきになりましたか。

おはなしにあわせてぶろっくをおいてうごかしましょう。

$$5 - 3 + 4 = 6$$

目標

・形の異なる2つの容器のかさの多少を比べる方法を考える。(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □1 2つのペットボトルを見せる。 「どちらが多く入るかな。」</p> <p>水のかさの比べ方を考えましょう。</p> <p>『一方に水を入れて、他方へ移す。』 (直接比較) 比べ方① 『同じ入れ物に入れて、高さで比べる。』 (間接比較) 比べ方② 『コップ何杯かで比べる。』 (任意単位) 比べ方③</p> <p>2. 「比べ方①で比べてみましょう。」 『水があふれたので…こちらが多く入る。』 『まだ入る余裕があるので…こちらが多く入る。』</p> <p>3. 「比べ方②で比べてみましょう。」 □2 『同じ入れ物に入れて水の高さが高いから多く入る。』</p> <p>4. △3 「多い順に言いましょう。」 『水の高さは同じだけど…。』</p> <p>まとめ 水のかさを比べるには、『一方に水を入れて、他方へ移す(直接比較)』『同じ入れ物に入れて、高さで比べる(間接比較)』『コップ何杯かで比べる(任意単位)』方法がある。</p>	<p>1. 2つのペットボトル容器を提示して、どちらが多く入るか比べる方法を考えさせる。(15分)</p> <p>比べ方③が出てきた場合は認め、次時に行い、本時ではまず①と②の方法で調べる。</p> <p>2. グループ毎に比べ方①の方法でかさ比べを行う。(25分)</p> <p>3. グループ毎に比べ方②の方法でかさ比べを行う。(35分)</p> <p>4. 理解の定着を図る。(45分)</p>

II 指導のポイント

・長さの単元での「直接比較」「間接比較」「任意単位」の学習経験を生かしながら数値化へとつなげていきましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・いろいろな種類の容器を集め、グループを作り、どちらが多く入るか比べる活動を行いましょう。

問題

子どもの考え 1
(書かせる)

子どもの考え 2
(書かせる)

まとめ

目標

・単位の大きさを決めて、そのいくつ分としてかさを捉えることができる。

(思考・判断・表現)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □4 「○た と ○ちは、どちらがどれだけ多く入るかな。」</p> <p>『コップで何杯分かを比べるといいよ。』 『何杯分多か比べられるよ。』</p> <p>水のかさを数で表せるかな。</p> <p>2. 「用意したいろいろな入れ物のかさがカップ何杯か調べましょう。」</p> <p>『同じカップで調べないと、比べられないよ。』 『カップにはびっちり水を入れないと比べられないよ。』</p> <p>「調べた結果を発表しましょう。」</p> <p>3. △4 「一番多く入るのはどれですか。」</p> <p>『○た はコップ6杯。』 『○ち はコップ8杯。』 『○つ はコップ7杯と半分。』 『一番多く入るのは…。』</p> <p>まとめ 水のかさを、カップ何杯分で表すことができる。カップ何杯分で表すと、どちらがどれだけ多く入るか表せる。</p>	<p>1. カップなど任意単位を用いての比べ方について考えさせる。 (15分)</p> <p>2. 準備した容器をグループ毎に選択させ、カップ何杯分か調べる。 →シート (35分)</p> <p>はしが出た場合は、「およそ」などの言葉を用いて表すことを知らせる。</p> <p>3. 理解の定着を図る。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・長さの学習同様、数でかさを比べると「かさがいくつ分違うか」も表すことができることに気付かせましょう。

III 子どもにさせる算数的な活動のポイント

・測定用に、共通の大きさのコップやプリンカップをグループの数だけ用意しましょう。十分な活動を通して、かさの違いに目を向けさせましょう。

かさがかずであらわそう

調べた結果

まとめ



月

日()

時間目

名前

こっぷ なんはいぶん はいるか しらべましょう。

しらべたいれもの	かず (なんはいぶん)

いちばん おおく はいったのは どれですか。

--

目標

・10のまとまりに着目して、繰り上がりのあるたし算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 『をしている絵かな』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 合わせて何個ひろったか考えよう。 </div> <p>「式を書きましょう」 『$9 + 4$』</p> <p>2. どうやって計算したらいいのかな。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 15%;">1から数える</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 15%;">9に1ずつ足して数える</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 15%;">10のまとまりをつくる</div> </div> <p>3. どの考えが一番、答えが出しやすいかな』</p> <p>『1つずつ数えるのは大変だ。』</p> <p>『9は1を足すと10にできるよ。あといくつを考えるといい。』</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ $9 + 4$の計算の仕方</p> <p>① 9はあと1で10</p> <p>② 4を1と3に分ける</p> <p>③ 9に1を足して10</p> <p>④ 10と3で13</p> </div> <p>4. △2 「$9 + 3$の計算のしかたを言いましょう。」</p> <p>『① 9はあと1で10 ② 3を1と2に分ける ③ 9に1を足して10 ④ 10と2で12』</p>	<p>1. 問題文を読み、題意を捉え、立式する。</p> <p>2. ブロックを操作しながら考えさせる。</p> <p>3. どのように答えを出したのかが分かるように説明し、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>他の方法を否定するのではなく、よりよい方法をとって、10のまとまりをつくることに着目させていく。</p> </div> <p>→シート①</p> <p>4. $9 + 4$での計算のしかたから考えさせる。</p> <p>→シート②</p>

II 指導のポイント

・具体物から離れられず、1ずつ数え足して答えを求める傾向の児童には、「10のまとまり」をつくることを強く意識させていきましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・ブロックやおはじきを使って、計算のしかたを説明しながら操作させさせることで、「10のまとまり」を意識させることができます。

あわせてなんこひろったかかんがえよう

しきをかこう $9 + 4$

どうやってけいさんしたらいいのかな

児童の考え

- ① 1 からかぞえる。
- ② 9 に1 ずつたしてかぞえる。
- ③ 10 のまとまりをつくる

まとめ ①9 はあと1 で10 ②4 を1 と3 にわける ③9 に1 をたして10

④10 と3 で13

① $9 + 4$ のけいさんのしかたをかきましょう。

● 9はあと () で10。

● 4を () と3にわける。

● 9に () をたして10。

● 10と () で () 。

$$9 + 4 =$$

② $9 + 3$ のけいさんのしかたをかきましょう。

● 9はあと () で10。

● 3を1と () にわける。

● 9に () をたして10。

● 10と () で () 。

$$9 + 3 =$$

目標

・10のまとまりに着目して、繰り上がりのあるたし算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">8 + 3の計算のしかたを考えよう。</div> <p>「ブロックを動かして説明しながら考えましょう。」</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">9 + 4の計算と同じようにできるかな。</div> <p>『10のまとまりをつくるんだったね。』</p> <p>2. 8 + 3の計算のしかたを言いましょう」</p> <p>『①8はあと2で10 ②3を2と1に分ける ③8に2を足して10 ④10と1で11』</p> <p>3. △4「7 + 4の計算のしかたを言いましょう。」</p> <p>『①7はあと3で10 ②4を3と1に分ける ③7に3を足して10 ④10と1で11 』</p> <p>4. △5「計算をしましょう。」</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>答えが10より大きくなる足し算は、10のまとまりをつくと分かりやすい。</p> </div>	<p>1. ブロックを操作しながら考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>前回、数え足しではなく、「10のまとまり」を考えたことを想起させる。</p> </div> <p>2. どのように答えを出したのかが分かるように説明する。</p> <p>3. ブロックを動かして説明しながら考え、発表する。</p> <p>4. 理解を定着させる</p>

II 指導のポイント

・被加数が9のときだけでなく、8の場合も「10のまとまり」をつくるように考えるとよいことを理解させましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・被加数が9のとき同様、ブロックやおはじきを使って、計算のしかたを説明しながら操作させさせることで、「10のまとまり」を意識させることができます。

$8 + 3$ のけいさんのしかたをかんがえよう。 $9 + 4$ のけいさんとおなじようにできるかな

- ① 8はあと2で10 ② 3を2と1にわける ③ 8に2をたして10
④ 10と1で11

△「 $7 + 4$ のけいさんのしかたをいみましょう」

- ① 7はあと3で10 ② 4を3と1にわける ③ 7に3をたして10
④ 10と1で11

まとめ こたえが10よりおおきくなるたしざんは10のまとまりをつくると
わかりやすい

目標

・10のまとまりに着目して、繰り上がりのあるたし算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. たしざんのやりかたをおさらいしよう。</p> <p>「ブロックを動かして説明しながら考えましょう。」</p> <p>9 + 4、8 + 3の計算のしかたをおさらいしよう。</p> <p>○ 8 + 3の計算のしかたを説明しよう。</p> <p style="padding-left: 40px;">『①8はあと2で10 ②3を2と1に分ける ③8に2を足して10 ④10と1で11』</p> <p>2. 計算をしよう。</p> <p style="text-align: center;">けいさんを しましよう。</p> <p>△5</p> <p style="padding-left: 40px;">⑦・・・被加数が6でも「10のまとまり」を意識する。 『6はあと4で10』</p> <p>△6</p> <p style="text-align: center;">ぺんぎん・めだかのもんだいはブロックをうごかしてかんがえよう。</p> <p>△7</p>	<p>1. ブロックを操作しながら考えさせる。</p> <p>2. 理解を定着させる。</p> <p>→シート①</p> <p>→シート②</p> <p>→シート③</p>

II 指導のポイント

・被加数が9、8のとき同様、被加数が6のときでも、「10のまとまり」を意識させましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・被加数が9、8のとき同様、ブロックやおはじきを使って、計算のしかたを説明しながら操作させさせることで、「10のまとまり」を意識させることができます。

けいさんを しましょう。

- ① 7はあと3で10 ② 4を3と1にわける ③ 7に3をたして10
④ 10に1をたして11

- △ ① 9+5 ② 8+4 ③ 7+6 ④ 8+7
⑤ 7+5 ⑥ 9+8 ⑦ 6+5 ⑧ 8+8 ⑨ 9+7

ペンギンは、ぜんぶでなんわ？ めだかはぜんぶでなんびき？

△ 6 $9+6=15$

△ 7 $8+6=14$

15わ

14ひき

まとめ 10のまとまりがつくりやすいほうほうをかんがえるといい

月

日()

時間目 名前

△5 けいさんを しましょう。

① $9 + 5 = (\quad)$

② $8 + 4 = (\quad)$

③ $7 + 6 = (\quad)$

④ $8 + 7 = (\quad)$

⑤ $7 + 5 = (\quad)$

⑥ $9 + 8 = (\quad)$

⑦ $6 + 5 = (\quad)$

⑧ $8 + 8 = (\quad)$

⑨ $9 + 7 = (\quad)$

△6

しき

こたえ (わ)

△7

しき

こたえ (ひき)

目標

・10のまとまりに着目して、繰り上がりのあるたし算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1.⑧ 3 + 9の計算のしかたを考えよう。</p> <p>「ブロックを動かして説明しながら考えましょう。」</p> <p>3と9のどちらを10のまとまりにしようかな。</p> <p>やりかた1</p> <p>①9はあと1で10 ②3を2と1にわけると③9に1をたして10 ④10に2をたして12</p> <p>やりかた2</p> <p>①3はあと7で10 ②9を7と2にわけると③3に7をたして10 ④10に2をたして12</p> <p>『9に1を加えるほうが10にしやすい。』</p> <p>「3 + 9の計算のしかたを言いましょう。」</p> <p>『①9はあと1で10 ②3を2と1に分ける ③9に1を足して10 ④2と10で12』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>10のまとまりが作りやすい方法を考えてよい。</p> </div>	<p>1. ブロックを操作しながら考えさせる。</p> <p>2. ブロックを動かして説明しながら考え、発表する。</p> <p>『やりかた1』 『やりかた2』を両方操作させ、どちらが計算しやすいか話し合う。</p> <p>「10のまとまりが作りやすい」という観点から話し合い、被加数の3を2と1に分解する。</p>

II 指導のポイント

- ・被加数が3の場合について、加数が9の場合など、いずれの場合も「10のまとまり」をつくることを意識させましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

- ・被加数、加数の大小に着目させながら操作させる。

3 + 9 のけいさんのしかたをかんがえよう

9 に 1 くわえるほうが 10 にしやすい

やりかた 1

- ① 9 はあと 1 で 10 ② 3 を 2 と 1 にわける ③ 9 に 1 をたして 10
④ 10 に 2 をたして 12

やりかた 2

- ① 3 はあと 7 で 10 ② 9 を 7 と 2 にわける ③ 3 に 7 をたして 10
④ 10 に 2 をたして 12

まとめ 10 のまとまりがつくりやすいほうほうをかんがえるといい

目標

・10のまとまりに着目して、繰り上がりのあるたし算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. けいさんのしかたをいみましょう。</p> <p>「ブロックを動かして説明しながら考えましょう。」</p> <p>6 + 7の計算のしかたをかんがえよう。</p> <p>6 + 7の計算のしかたを説明しよう。</p> <p>やりかた1</p> <p>①6はあと4で10②7を4と3にわける③6に4をたして10 ④10に3をたして13</p> <p>やりかた2</p> <p>①7はあと3で10②6を3と3にわける③7に3をたして10 ④10に3をたして13</p> <p>2. 計算をしよう。</p> <p>けいさんを しましよう。</p> <p>△10</p> <p>△11 おはなのもんだいはブロックをうごかしてかんがえよう。</p>	<p>1. ブロックを操作しながら考えさせる。</p> <p>やりかた1・やりかた2の両方を操作させる。</p> <p>2. 理解を定着させる。</p> <p>→シート①</p> <p>→シート②</p>

II 指導のポイント

・被加数が9、8のとき同様、被加数が6のときでも、「10のまとまり」を意識させましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・被加数が9、8のとき同様、ブロックやおはじきを使って、計算のしかたを説明しながら操作させさせることで、「10のまとまり」を意識させることができます。

けいさんを しましょう。

○6はあと4で・・・ ○7はあと3で・・・

- △ ①2+9 ②5+6 ③8+5 ④7+7
⑤5+9 ⑥3+8 ⑦4+7 ⑧6+8 ⑨3+9

はなは、ぜんぶでなんぼん？

△11 5+8=15

13わ

まとめ 10のまとまりがつくりやすいほうほうをかんがえるといい

月

日()

時間目 名前

△ 1 0 けいさんを しましう。

① 2 + 9 = ()

② 5 + 6 = ()

③ 8 + 5 = ()

④ 7 + 7 = ()

⑤ 5 + 9 = ()

⑥ 3 + 8 = ()

⑦ 4 + 7 = ()

⑧ 6 + 8 = ()

⑨ 8 + 9 = ()

△ 1 1

しき

こたえ (ほん)

目標 ・加法の計算能力を高める。(技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. カードを使って計算の練習をしましょう」</p> <p>2. P67上段のようにカードを貼る。気付いたことを言いましょう。</p> <p>『階段みたいに並んでいるね。』</p> <p>「カードの並び方や式の答えから気付いたことを言いましょう。」</p> <p>何かきまりがあるのかな。</p> <p>『たてに見ると9+、8+…とそろっている。』</p> <p>『たてに見ると答えが1ずつ増えていく。』</p> <p>『横に見ると+2、+3…とそろっている。』</p> <p>『横に見ると答えが1ずつ減っていく。』</p> <p>『左上から右下に斜めに見ると答えが同じ。』</p> <p>3.【カードを一部抜いて）抜いたところはどんな式が入りますか」</p> <p>『上から順番だから…。』</p> <p>『横に見ると…。』</p> <p>4. 答えが○になるカードはどれですか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>たす数やたされる数が1増えると答えも1増える。</p> </div>	<p>1. P67の写真のように計算カードを使って一人で計算練習する。</p> <p>2. 数に対する柔軟な見方を引き出す。</p> <p>関数的な見方の素地となるが、深入りせずに気づいたことを発表したり、いろいろな並び方を見せる程度にする。</p> <p>3. 縦横の並び方に着目して考える。</p> <p>4. 答えが同じ数になる式を集める。</p>

II 指導のポイント

・適当に重ねたカードを使って、加法の計算を習熟させたりカードの並び方や、同じ答えに着目させて、気付きを促したりしましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・答えが同じになるカードを集めて、黒板に並べて貼らせるなどし、その枚数が異なることなどに興味をもたせましょう。

カードをつかってけいさんのれんしゅうをしましょう

100ページのカードをできるだけ拡大コピーしてカードを作る。カードを作る時間がない場合は必要などころを隠して使用する。

気づいたことを発表させる。
例・縦にみると9+, 8+・・・とそろっている。
・縦にみると答えが1ずつふえていく。
・よこにみると+2, +3・・・とそろっている。
・横にみると答えが1ずつ減っている。
・左上から右下に斜めに見ると答えが同じ

目標 ・加法の計算能力を高める。(技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. カードを使って計算の練習をしましょう」</p> <p>2. 「だちの出したカードの答えを言いましょう」 早く正確に答えるにはどうしたらいいのかな。</p> <p>3. P101上段左「お互いにカードめくって、大きさ比べをしましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 「10のまとまり」を頭の中で考えることが大切だ。</p> </div> <p>※時間がある場合は、計算練習などで習熟する。</p>	<p>1. P100上段の写真のように計算カードを使って一人で計算練習する。</p> <p>2. 2人ペアをつくり、一方が問題を出し、相手は答えを言う。</p> <p>3. 2人ペアをつくり、カードをめくって大きさ比べをする。</p> <p>ペアを変える、人数を変えるなど、ゲームの方法を工夫させる。</p>

II 指導のポイント

・早く、正確に答えるには、「10のまとまり」を頭の中で考えるとよいことを、意識させましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・工夫をしながらカードを使って様々な活動が考えられます。

カードをつかってゲームをしながらけいさんのれんしゅうをしましょう

ルールのせつめい

「カードとり」

- ①すべてのカードをおもてにむけます。
- ②せんせいがいったすうじになるしきのカードをみつけはやくとったひとの勝ちです。

「おおきさくらべ」

- ①ふたりひとくみになります。
- ②カードをうらがえしにしてきり、ふたりにくばります。
- ③うえからじゅんにかーどをめくりしきのこたえのおおきいひとがあいてのカードをもらえます。たくさんカードをあつめたほうが勝ちです。

まとめ 「10のまとまり」をあたまのなかでかんがえることがたいせつだ

目標 ・加法の計算能力を高める。(技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. カードを使って計算の練習をしましょう』</p> <p>2. 『こたえが12になるかあどをみつめましょう』</p> <p>『きづいたこと』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たされる数が1ふえるとたす数は1へる。 ・こたえが12になるけいさんはほかにもある。 <p>3. 『おなじ こたえの かあどを あつめましょう。』</p> <p>『きづいたこと』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たされる数が1ふえるとたす数は1へる。 ・かあどをよこにみると、たすかずが1ずつふえていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>まとめ 「10のまとまり」を頭の中で考えることが大切だ。</p> </div> <p>※時間がある場合は、計算練習などで習熟する。</p>	<p>1. 計算カードを使って一人で計算練習する。</p> <p>2. 答えが12になる計算カードを順序よく並べ直し、抜けているカードに気づかせる。</p> <p>3. 12の他にも答えが同じ数になるカードを順序よく並べる。</p>

II 指導のポイント

- ・被加数が1増えると、加数が1減ることに気づかせる。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

- ・工夫をしながらカードを使って様々な活動が考えられます。

かーどをつかってげーむをしながらけいさんのれんしゅうをしましょう

「こたえが12になるかあどをあつめましょう。」

○きづいたこと

「おなじ こたえの かあどをあつめましょう。」

○きづいたこと

目標

・立体図形に親しみ、その概形や特徴、機能を捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ④ いろいろな物を作しましょう。</p> <p>『いろいろな空き箱や缶があるね。』 『組み合わせると、何かできそうだ。』</p> <p>何を作ろうかな。</p> <p>「積み木のように、箱や缶を組み合わせましょう。」 『〇〇はどれを使おうかな。』 『どっちを〇〇しようかな。』 『〇〇にするには...。』</p> <p>2. 『作った物を紹介しましょう』 『〇〇を作りました。』 『〇〇の部分は..を使いました。』 『〇〇するために、...しました。』</p> <p>まとめ 形をうまく利用して〇〇ができた。</p>	<p>1. 空き箱や缶を組み合わせ せて物を作る。</p> <p>セロハンテープで止 めずに、積み木よう に材料を組み合わせ せる。</p> <p>2. 作った物をみんなに紹 介する。</p> <p>形に意識が向いた言葉 が引き出されるよう に、「この部分は何を使 ったの。」「どうしてそれを使 ったの。」など質問すると よい。</p>

II 指導のポイント

・図形の指導では実物に触れることが大切です。色など、形以外のことは除いて考え、形のみに着目させていきましょ
う。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・作品を展示しておくことができない場合は、デジタルカメラなどを使って、プリントして掲示する方法もあります。

いろいろなものをつくりましょう

つくったものをしょうかいしましょう

まとめ かたちをうまくりょうしてooができた。

目標

・立体図形に親しみ、その概形や特徴、機能を捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ④ いろいろな物を作しましょう。</p> <p>『いろいろな空き箱や缶があるね。』 『組み合わせると、何かできそうだ。』</p> <p>何を作ろうかな。</p> <p>「積み木のように、箱や缶を組み合わせましょう。」 『〇〇はどれを使おうかな。』 『どっちを〇〇しようかな。』 『〇〇するには...。』</p> <p>2. 『作った物を紹介しましょう』 『〇〇を作りました。』 『〇〇の部分は...を使いました。』 『〇〇するために、...しました。』</p> <p>まとめ 形をうまく利用して〇〇ができた。</p>	<p>1. 空き箱や缶を組み合わせて物を作る。</p> <p>セロハンテープで止めずに、積み木のように材料を組み合わせる。</p> <p>2. 作った物をみんなに紹介する。</p> <p>形に意識が向いた言葉が引き出されるように、「この部分は何を使ったの。」「どうしてそれを使ったの。」など質問するとよい。</p>

II 指導のポイント

・図形の指導では実物に触れることが大切です。色など、形以外のことは除いて考え、形のみに着目させていきましょ
う。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・作品を展示しておくことができない場合は、デジタルカメラなどを使って、プリントして掲示する方法もあります。

いろいろなものをつくりましょう

つくったものをしょうかいしましょう

まとめ かたちをうまくりょうしてooができた。

目標 ・立体図形の特徴や機能を捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ㉒ にている かたちを あつめましょう。</p> <p>「形で仲間わけをしましょう。」</p> <p>どんな分け方があるのかな。</p> <p>『ボールや缶は《丸い形の仲間》。』 『しかくい箱は《箱の形の仲間》。』 『細長い形は《長い形の仲間》。』 『丸い形は《ボールの形の仲間》《筒の形の仲間》に分けられる。』</p> <p>2. ① 「2つに分けましょう。」 『《丸い形の仲間》と《箱の形の仲間》に分けられる。』 『《丸まっているところのある形の仲間》と《まっすぐな線の形の仲間》に分けられる。』</p> <p>3. ② 「3つに分けましょう。どのようにわけたのかな。」 『《丸い形の仲間》。』 『《箱の形の仲間》。』 『《箱の形の仲間》の中でも《さいころの形》。』</p> <p>まとめ 形の特徴で、箱や缶を仲間分けすることができる。</p>	<p>1. 似た形の仲間を分けて片付ける状況を設定して話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>話し合いの中で出てきた子供の言葉の表現を頼りに仲間分けするとよい。</p> </div> <p>2. 2種類に分類する。</p> <p>3. 3種類に分類する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>直方体と正方体を「長い箱の形」「さいころの形」など、子供の言葉の表現でまとめる。</p> </div>

II 指導のポイント

・今まで子供が無意識に捉えてきた形に対する見方や「さんかく」「しかく」「まる」などの言葉を引き出し、形の特徴や機能をまとめましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・大きさや色、用途ではなく、形で仲間分けし、子供の言葉でネーミングしていきましょう。

わかりやすくわけましょう

どんなわけかたがあるのかな

2つにわけ

例 「まるいかたちのなかまとはこのかたちのなかま」
「まるまっているところがあるかたちのなかまとまっすぐなせんのかたちのなかま」

3つにわけ

例 「まるいかたちのなかま」
「はこのかたちのなかま」
「はこのかたちのなかまのなかでもさいころのかたちのなかま」

まとめ かたちのとくちょうで、はこやかんをなかまわけすることができる。

目標

・立体図形を構成する一部に平面図形があることを捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 形をうつして絵を描きましょう。</p> <p>「形を紙にうつし取ってみましょう。」</p> <p>箱（缶）からどんな形がうつしとれるかな。</p> <p>『缶は《丸い形》』『箱は《しかくの形》。』 『これは箱のこの部分をうつし取りました。』 『同じ箱でも違う形のしかくができる。』</p> <p>2. 形をうつし取って絵を描きましょう。 『ooの絵が描けそう。』 『ooの部分は...でうつし取ろう。』 『色を塗るといいね。』</p> <p>3. できた絵を発表しましょう。形で工夫したことを言いましょ う。」 『ooの絵を描きました。』 『ここはこの箱（缶）のこの部分を使いました。』 『ooの部分は...の形にしました。』</p> <p>まとめ 箱や缶からいろいろなしかくやまるをうつし取ることがで きる。</p>	<p>1. 箱や缶からどんな形が紙にうつし取られるか調べる。</p> <p>平面図形が立体図形を構成していることを捉えさせる。</p> <p>2. うつし取られた形から連想し、組み合わせて絵を描く。</p> <p>色を塗ったり、切り取ったりすることを認め、表現を工夫させる。</p> <p>3. どこを使ってどんな絵を描いたか発表する。</p>

II 指導のポイント

・同じ箱からでも、異なる四角形を描けることや、円柱からは円を描けることなどを確認していきましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・立体の面をうつし取り、絵を描くことで、平面図形に目を向けさせましょう。

かたちを うつして、えを かきましょう。

まとめ はこやつつをつかって、えが かけた。

目標

・10のまとまりに着目して、繰り下がりのあるひき算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 『何をしている絵かな』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> どんぐりは何個残っているか考えよう。 </div> <p>「式を書きましょう」 『13-9』</p> <p>2. 『どうやって計算したらいいの』</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> 13から1つずつとる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> 13から3とり、6をとる。 (減減法) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> 10のまとまりから9をとる。 (減加法) </div> </div> <p>3. 『どの考えが一番、答えが出しやすいかな』</p> <p>『1つずつ数えるのは大変だ。』</p> <p>『13を10と3に分けて考え、10のまとまりから9を引くといい。』 (減加法)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>まとめ 13-9の計算の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 3から9は引けない ② 13を10と3に分ける ③ 10から9を引いて1 ④ 1と3で4 (減加法) </div> <p>4. Δ2 「12-9の計算のしかたを言いましょう。」</p> <p>『① 2から9は引けない』</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 12を10と2に分ける ③ 10から9を引いて1 ④ 1と2で3 (減加法) 	<p>1. 問題文を読み、題意を捉え、立式する。</p> <p>2. ブロックを操作しながら考えさせる。 (20分)</p> <p>3. どのように答えを出したのかが分かるように説明し、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content;"> 他の方法を否定するのではなく、よりよい方法をとって、10のまとまりに着目させていく。 </div> <p>→シート①</p> <p>4. 13-9での計算のしかたから考えさせる。 →シート②</p>

II 指導のポイント

・1ずつ数え引く、減減法、減加法があるが、この場合は 減加法が答えが求めやすいことをおさえましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・ブロックやおはじきを使って、計算のしかたを説明しながら操作させさせることで、「10のまとまり」を意識させる。

どんぐりは、なんこ のこっているかな。

13から1つずつと
る。

13から3をとり、
そのあと6をとる。

10から9をとり、
そのあと3をたす。

まとめ

13-9 けいさんのしかた

- ① 3から9は引けない ② 13を10と3に分ける
③ 10から9を引いて1 ④ 1と3で4

月

日()

時間目 名前

① $13 - 9$ の けいさんの しかたを かき
ましょう。

- () から 9 は ひけない。
- 13 を () と 3 に わける。
- () から 9 を ひいて 1。
- 1 と () で 4。 $13 -$

$$9 =$$

② $12 - 9$ の けいさんの しかたを かき
ましょう。

- () から 9 は ひけない。
- 12 を () と 2 に わける。
- () から 9 を ひいて 1。
- 1 と () で 3。

$$12 - 9 =$$

目標

・10のまとまりに着目して、繰り下がりのあるひき算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □</p> <p>14-8の計算のしかたを考えよう。</p> <p>「ブロックを動かして説明しながら考えましょう。」</p> <p>13-9の計算と同じようにできるかな。</p> <p>『10のまとまりから引くとよかったね。』</p>	<p>1. ブロックを操作しながら考えさせる。</p> <p>前回、数え引きではなく、「10のまとまり」から引いたことを想起させる。</p>
<p>2. □ 14-8の計算のしかたを言いましょう』</p> <p>『①4から8は引けない ②14を10と4に分ける ③10から8を引いて2 ④2と4で6 』</p>	<p>2. どのように答えを出したのかが分かるように説明する。</p>
<p>3. △ 11-7の計算のしかたを言いましょう。』</p> <p>『①1から7は引けない ②11を10と1に分ける ③10から7を引いて3 ④3と1で4 』</p> <p>まとめ ひかれる数を10といくつに分けて、10から引くと分かりやすい。</p>	<p>3. ブロックを動かして説明しながら考え、発表する。</p>

II 指導のポイント

・ここでは形式をくり返し練習させることよりも、「10といくつ」をつくり、「その10から引く」ことを十分に理解させ、定着させることが大切です。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・被減数(ひかれる数)が13のとき同様、ブロックを使って計算のしかたを説明しながら操作させさせることで、「10のまとまり」を意識させることができます。

14-8のけいさんのしかたをかんがえよう

しきをかこう 14-8

どうやってけいさんしたらいいのかな

児童の考え

- ① 14を10と4にわける ② 10から8をひいて3
- ③ 2と4をたして6

△「11-7のけいさんのしかたをいみましょう」

- ① 11を10と1にわける
- ② 10から7をひいて3
- ③ 3と1をたして4

まとめ

ひかれる数を10といくつに分けて、10から引くと分かりやすい。

目標

・10のまとまりに着目して、繰り下がりのあるひき算の計算ができる。

(技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. △5 「計算をしましょう。」</p> <p>2. △6 のこりは何枚になりますか。</p> <p>「式を書きましょう。」 『13-8』 「13-8の計算のしかたを言いましょう。」 『①13を10と3に分ける ②10から8を引いて2 ③2と3をたして5 』など 『答えは5枚』</p> <p>3. △7 どちらが何羽多いでしょう。</p> <p>「式を書きましょう。」 『15-7』 「15-7の計算のしかたを言いましょう。」 『①5から7は引けない ②15を10と5に分ける ③10から7を引いて3 ④3と5で8 』 『答え～はとが8羽多い』</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ 式を立てて「10のまとまりから引いて計算するとよい。」</p> </div>	<p>1. 理解を定着させる。</p> <p>→シート①</p> <p>2. 文意を捉え、立式し、答えを求める。</p> <p>→シート②</p> <p>3. 文意を捉え、立式し、答えを求める。</p> <p>→シート③</p>

II 指導のポイント

- ・減加法にするか、減減法するか、児童の思考に合わせて認めていきましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

- ・減数と減数の一の位の数の大小に着目させながら、ブロックを操作して、分かりやすい計算の方法を考えさせましょう。

けいさんを しましょう。

△5

- ① 11-8 ② 16-9 ③ 13-7 ④ 11-5 ⑤ 12-8 ⑥ 15-9
⑦ 12-6 ⑧ 11-9 ⑨ 14-7

のこりはなんまい？ どちらがなんわおおい？

△6 $13-8=5$

5まい

△7 $15-7=8$

すずめが8わおおい

まとめ 10のまとまりからひくとけいさんできる

月

日()

時間目 名前

△5 けいさんを しましょう。

① 11 - 8 = ()

② 16 - 9 = ()

③ 13 - 7 = ()

④ 11 - 5 = ()

⑤ 12 - 8 = ()

⑥ 15 - 9 = ()

⑦ 12 - 6 = ()

⑧ 11 - 9 = ()

⑨ 14 - 7 = ()

△6

しき

こたえ () まい)

△7

しき

こたえ () が () わおおい

目標

・10のまとまりに着目して、繰り下がりのあるひき算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>△8</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">12-3の計算のしかたを考えよう。</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「ブロックを動かして説明しながら考えましょう。」</div> <p>考え1</p> <p>①12を10と2にわけ ②10から3をひいて7 ③7と2をたして9 (減加法)</p> <p>『ひく数が小さいから、2を取って、1を取ることもできる。』</p> <p>考え2</p> <p>①ひく数3を2と1に分ける ②12から2を引いて10 ③10から1を引いて9 (減減法)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ</p> <p>引く数が小さいときは、じゅういくつの「いくつ」のほうから取っていくこともできる。(減減法)</p> </div>	<p>1. ブロックを操作しながら考えさせる。</p> <p>○(減加法) (減減法) 両方の計算の仕方を子供たちに体験させ両方のよさを感じさせる。</p> <p>2. 理解を定着させる。</p>

II 指導のポイント

- これまで減加法を扱ってきたが、減減法が分かりやすい場合もある。自分にあった分かりやすい方法で考えることを促しましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

- 減数と減数の一の位の数の大小に着目させながら、ブロックを操作して、分かりやすい計算の方法を考えさせましょう。

12-3のけいさんのしかたをかんがえよう

やりかた1

- ① 12を10と2に分ける
- ② 10から3をひいて7
- ③ 7と2をたして9

やりかた2

- ① ひく数3を2と1に分ける
- ② 12から2を引いて10
- ③ 10から1を引いて9

まとめ ばらから ひく けいさんのしかたもある。

目標

・10のまとまりに着目して、繰り下がりのあるひき算のしかたを考える。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. けいさんのしかたをいましょう。</p> <p>「ブロックを動かして説明しながら考えましょう。」</p> <p>16-7の計算のしかたをかんがえよう。</p> <p>16-7の計算のしかたを説明しよう。</p> <p>やりかた1</p> <p>①16を10と6にわけ ②10から7をひいて3 ③3と6をたして9 (減加法)</p> <p>やりかた2</p> <p>①ひく数7を6と1に分ける ②16から6を引いて10 ③10から1を引いて9 (減減法)</p> <p>2. 計算をしよう。</p> <p>けいさんを しましよう。</p> <p>△10</p> <p>△11 いちごのもんだいはブロックをうごかしてかんがえよう。</p>	<p>1. ブロックを操作しながら考えさせる。</p> <p>やりかた1・やりかた2の両方を操作させる。</p> <p>2. 理解を定着させる。</p> <p>→シート①</p> <p>→シート②</p>

II 指導のポイント

・減数が7のときでも、「10のまとまり」を意識させよう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

・ブロックやおはじきを使って、計算のしかたを説明しながら操作させさせることで、「10のまとまり」を意識させることができます。

16-7のけいさんのしかたをかんがえよう

やりかた1

- ① 16を10と6にわける
- ② 10から7をひいて3
- ③ 3と6をたして9

やりかた2

- ① ひく数7を6と1に分ける
- ② 16から6を引いて10
- ③ 10から1を引いて9

△10 けいさん を しましょう。

△11 しき 13 - 4

こたえ 9こ

まとめ 10のまとまりがつくりやすいほうほうをかんがえるといい

月

日()

時間目 名前

△ 1 0 けいさんを しまししょう。

① 1 2 - 7 = ()

② 1 1 - 2 = ()

③ 1 4 - 9 = ()

④ 1 7 - 8 = ()

⑤ 1 4 - 5 = ()

⑥ 1 8 - 9 = ()

⑦ 1 2 - 4 = ()

⑧ 1 5 - 8 = ()

⑨ 1 1 - 6 = ()

△ 1 1

しき

こたえ () ()

目標 ・減法の計算能力を高める。(技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. カードを使って計算の練習をしましょう。</p> <p>2. P83のようにカードを貼る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">気付いたことを言いましょう。</div> <p style="text-align: center;">『階段みたいに並んでいるね。』</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">けいさんのれんしゅうをしましょう。</div> <p>○計算カードをつかって、一人で計算の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人がランダムにカードを重ね、上から1枚ずつ取って問題を出す。間違った問題は別の山にして、もう一度取り組ませる。 <p>○2人で問題を出し合ったり、大きさ比べをしたりする。</p> <p>上から1枚ずつカードを出し、答えの大きい方のカードを出した人が勝ち。</p>	<p>数に対する柔軟な見方を引き出す。</p> <p>P83を基に計算カードを使ったいろいろなゲームに取り組む。</p>

II 指導のポイント

- ・適当に重ねたカードを使って、減法の計算を習熟させる。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

- ・ゲームに勝つことが目的ではなく、引き算計算能力を伸ばすことが目的です。

カードをつかってけいさんのれんしゅうをしましょう

83ページのカードをできるだけ拡大コピーしてカードを作る。カードを作る時間がない場合は必要なところを隠して使用する。

気づいたこと

- ・
- ・
- ・
- ・

目標 ・減法の計算能力を高める。(技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p style="text-align: center; border: 1px dashed black; padding: 5px;">29-2 の続きの活動です。</p> <p>1. 「答えが8になるカードを集めましょう。」</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 50%;">気づいたことを言いましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・引かれる数が1ふえると、引く数も1ふえる。 ・こたえが8になる引き算はほかにもありそうだ。 <p>2. 同じ答えのカードを集めましょう。</p> <p>答えが8になるカード集めを発展させ、他にも同じ答えのカードを集めてきまりを見つけることに関心をもたせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 50%;">気づいたことを言いましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・引かれる数が1ふえると、引く数も1ふえる。 ・カードをよこに見ると、引かれる数が同じで引く数が1ふえていく。 ・カードがなくてもいろいろな引き算ができそうだ。 	<p>○答えが8になるカードを並べて、気づいたことを発表させる。</p> <p>○P84のようにカードを並べ、気づいたこと自由に発表させる。</p>

II 指導のポイント

- ・計算カードを並べ、気づいたことを発表させることを通して、関数的な見方の素地を育てていく。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

- ・カードを使った練習は、他にも様々な方法が考えられます。工夫して、楽しみながら取り組ませることで、習熟させましょう。

気づいたことをはっぴょうしましょう

83ページのカードをできるだけ拡大コピーしてカードを作る。カードを作る時間がない場合は必要なところを隠して使用する。

気づいたこと

- ・
- ・
- ・
- ・

目標

・加法や減法の場面を捉えたり、問題を考えたりすることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. びんな場面かな』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 式を書いて答えを求めましょう。 </div> <p>① 式 $4 + 7 = 11$ 答え 11匹</p> <p>② 式 $12 - 3 = 9$ 答え 9匹</p> <p>③ 式 $8 + 4 = 12$ 答え 12羽</p> <p>④ 式 $14 - 6 = 8$ 答え 8羽</p> <p>2. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 絵を見て、足し算や引き算のお話をつくりましょう。 </div></p> <p>『...合わせて...』 『...全部で...』 『...のこりは...』 『...違いは...』</p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ</p> <p>足し算は『...合わせて...』『...全部で...』引き算は 『...のこりは...』 『...違いは...』と考えるとお話が作れる。</p> </div>	<p>1. 文意を捉え、立式し、 答えを求める。</p> <p>→シート①</p> <p>2. 絵を見て、加法・減法 の問題をつくる。</p> <p>→シート②</p>

II 指導のポイント

- ・足し算の場面、引き算の場面を文意に沿って、判断させましょう。また、問題を参考にして、作問させましょう。

III 子どもにさせる数学的活動のポイント

- ・同じ場面の絵でも、足し算の問題にしたり、引き算の問題にしたりできることを、話し合う活動を通して捉えさせましょう。

どんな けいさんに なるのかな？

しき と 答え は なにになるかな？

① $4 + 7 = 11$ 答え 11 ひき

② $12 - 3 = 9$ 答え 9 ひき

③ $8 + 4 = 12$ 答え 12 わ

④ $14 - 6 = 8$ 答え 8 わ

えをみて かんがえた たしざん
やひきざんの おはなしを かき
ましょう。

まとめ

たしざんは『…あわせて…』『…ぜんぶで…』ひきざんは『…のこりは…』
『…ちがいは…』とかんがえるとおはなしがつくれる。

月

日()

時間目 名前

①しきと こたえを かきましょう。

①しき

こたえ

②しき

こたえ

③しき

こたえ

④しき

こたえ

②えをみて かんがえた たしざんやひきざんの おはなしを かきましよう

おはなし

しきと こたえを かきましよう。

目標

・20より大きい数を10のまとまりといくつと捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P91上段写真「たねはなんこありますか。」</p> <p>2. なんこあるか数えましょう。</p> <p>「数えやすいようにたねをまとめましょう。」</p> <p>どうまとめると数えやすいかな。</p> <p>「数えやすいまとめたか発表しましょう。」</p> <p>『20までの数のときは…。』</p> <p>『10のまとまりといくつで数えるといい。』</p> <p>3. 「たねはなんこありますか」</p> <p>『10のまとまりを線で囲むといい。』</p> <p>P92「どのように数えたかな。」</p> <p>『10のまとまりを作って並べた。』</p> <p>『10のまとまりがいくつ、ばらがいくつを数えた。』</p> <p>『10が3こで30、30と8でにさんじゅうはち。』</p> <p>『10が5こでごじゅう。』</p> <p>4. 「たねのかずをいみましょう」</p> <p>まとめ 「10のまとまりがいくつ、ばらがいくつ」をつくと数えやすい。</p>	<p>1. 20より大きい数の数え方を考える。</p> <p>3. 教科書の2つの数え方を理解し、数える。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin-top: 20px;"> <p>「10のまとまりがいくつと端数」で2位数(2桁の数)を数えることのよさ確かめる。</p> </div>

II 指導のポイント

・これまでの「10といくつ」という捉え方をもとに、「10のまとまりがいくつ」と「端数」を捉えさせていきましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・数が多くなると、1ずつ数えるよりも、「10のまとまり」を考えたほうが、分かりやすいことを活動を通して、気づかせましょう。

たねは なんこ あるかな。

P91のひまわりとあさがおの種の
写真を貼る。

『10のまとまりを作って並べた。』

『10のまとまりがいくつ、ばらがいくつを数え
た。』

〈ひまわり〉

『10が3こで30、30と8でにさんじゅうは
ち。』

〈あさがお〉

『10が5こでごじゅう。』

まとめ 「10のまとまりがいくつ、ばらがいくつ」をつくるとかぞえやすい

目標

・2位数の位取りの原理と表し方について捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. たねの数を数字で書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「《さんじゅうはち》《ごじゅう》を数字で書きましょう。」</p> </div> <p>「10のまとまり数」「ばらの数」をどこに書くのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりの個数を十の位に書く。 ・ばらの個数を一の位に書く。 ・ばらの数がないときは0を書く。 <p>「シートに38、50と書きましょう。」</p> <p>2. △3「数を数えましょう。」</p> <p>①たまご 『10のまとまりが4こで40。』『ばらが6。』 『合わせて46こ。』</p> <p>②ペン 『10のまとまりが8こで80。』 『ばらも10のまとまりにできる。』『合わせて80こ。』</p> <p>③シール 『10のまとまりが7こで70。』『ばらが6。』 『合わせて76こ。』</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりの個数を十の位に書く。 ・ばらの個数を一の位に書く。 	<p>1. 位取り記数法について理解する。</p> <p>2. 理解を定着させる。</p>

II 指導のポイント

・「十の位」は「10のまとまりの個数を書く場所」、「一の位」は「ばらの個数を書く場所」であることを、位取り図を用いると分かりやすく説明できます。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・身のまわりにある物の数を数えて、数字で表す活動も取り入れて、理解を深めましょう。

たねの かずを すうじでかきましょう。

P92の算数ブロックと各位の数字
を対応させた図を書く（貼る）

①たまご

『10のまとまりが4こで40。』『ばらが
6。』

『合わせて46こ。』

②ペン

『10のまとまりが8こで80。』

『ばらも10のまとまりにできる。』『合わせて
80こ。』

③シール

『10のまとまりが7こで70。』『ばらが
6。』

『合わせて76こ。』

目標

・2位数の位取りの原理と表し方について捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. Δ4 数をかぞえましょう。</p> <p>『間違えないように10のまとまりを線で囲むといい。』</p> <p>「10のまとまり」「ばら」はいくつあるのかな。</p> <p>①ペットボトルのふた 『10のまとまりが5こで50。』『ばらが6。』 『合わせて56こ。』</p> <p>②プリンカップ 『10のまとまりが6こで60。』『ばらが5。』 『合わせて65こ。』</p> <p>③おりがみ 『10のまとまりが9こで90。』『ばらが2。』 『合わせて92まい。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりをかぞえる。 ・ばらの個数をかぞえる。 ・『10のまとまり』と『ばら』をあわせる。 </div>	<p>1. 位取り記数法について理解を定着させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content;"> <p>1こずつ印をつけたり、10ずつ線で囲んだりして、落ちや重なりがないように数える。</p> </div>

II 指導のポイント

・「十の位」は「10のまとまりの個数を書く場所」、「一の位」は「ばらの個数を書く場所」であることを位取り図を用いると分かりやすく説明できます。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・身のまわりにある物の数を数えて、数字で表す活動も取り入れて、理解を深めましょう。

かずを かぞえましょう。

①ペットボトルのふた
『10のまとまりが5こで50。』
『ばらが6。』
『合わせて56こ。』

②プリンカップ
『10のまとまりが6こで60。』
『ばらが5。』
『合わせて65こ。』

③おりがみ
『10のまとまりが9こで90。』
『ばらが2。』
『合わせて92まい。』

まとめ

- ・10のまとまりをかぞえる。 ・ばらの個数をかぞえる。
- ・『10のまとまり』と『ばら』をあわせる。

目標

・2位数の位取りの原理と表し方について捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>□5 76をあらわしましょう。</p> <p>76をいろいろなほうほうであらわしてみよう。</p> <p>「ブロックでしめしたり、位取り表に記入したり、しましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりの個数を十の位に書く。 ・ばらの個数を一の位に書く。 ・ばらの数がないときは0を書く。 <p>2. △6の問題に答える。</p> <p>3. △7の問題に答える。</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりの個数を十の位に書く。 ・ばらの個数を一の位に書く。 	<p>1. 2人でペアとなり、1人はブロックで2位数をつくる。もう1人は、数を唱え、位取り表に数を記入する。</p> <p>「ブロックで問題を出す」「位取り表で問題を出す」「教師が問題を出す」「ペアを変える」など、いろいろな方法で練習させる。</p> <p>2. 理解を定着させる。</p> <p>3. 理解を定着させる。</p>

II 指導のポイント

・2位数を位取りに対応させて、「10のまとまりの数」と「10未満の数」の合成として捉えさせましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・「ブロック(半具体物)→数字」「数字→ブロック(半具体物)」の操作をくり返すことで、理解を深めさせましょう。

76を あらわしましょう。

カード
十のくらいが7で、一のくらいが6

ず
76は70と6をあわせたかず

ブロック
10が7こで70
1が6こで6
70と6で76

まとめ

- ・10のまとまりをかぞえる。 ・ばらの個数をかぞえる。
- ・『10のまとまり』と『ばら』をあわせる。

月

日()

時間目

△ 6

① 10が9こで ()、1が7こで ()
90と7で ()

② 10が6こで ()

③ 86は、10が () こと1が () こ

④ 90は、10が () こ

△ 7

① 十のくらいが3、一のくらいが8の
かずは ()

② 70の十のくらいのすうじは ()
一のくらいのすうじは ()

目標

・10のまとまりが10こで100と捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1.㊦ おちばの かずを かぞえましょう。</p> <p>『間違えないように10のまとまりを線で囲むといい。』</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「10のまとまり」が10こでいくつかな。</p> </div> <p>「10が10こで百といます。」 「百は100と書きます。」 「100は99より1大きい数です。」</p> <p>2. △2①「数を数えましょう。」 『10、20、30…。』 『10のまとまりが10こあるので100。』</p> <p>3. △2②「数を数えましょう。」 『5、10、15…。』 『10のまとまりが10こあるので100。』</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりが10こで100。 ・100は99より1大きい。 ・「5、10、15…」 「10、20、30…」 と数えると数えやすい。 </div>	<p>1. 100の唱え方、読み方、書き方を理解させる。</p> <p>2. 理解の定着を図る。</p> <p>3. 理解の定着を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content;"> <p>「5、10、15…」 「10、20、30…」と数えることは、能率的に数えるためであるが、将来の乗法の素地を経験させることにもなる。</p> </div>

II 指導のポイント

・ここでは百の位については触れません。「10が10こで百」「百を100と表すこと」を理解させましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

- ・実際にブロックを操作し、100を体感させましょう。
- ・90から100まで丁寧に数えさせ、99の次が100であることをおさえましょう。

おちばの かずを かぞえましょう。

P97

おちばの写真

「10が10こでひゃくといいます。」

「ひゃくは100とかきます。」

「100は99より1大きいかずです。」

まとめ

- ・10のまとまりが10こで100。
- ・100は99より1大きい。
- ・「5、10、15...」「10、20、30...」と数えると 数えやすい。

目標

・数表から数の並び方の規則性を捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □ 数の並び方を調べましょう。</p> <p>「一の位が3の数を見つけて、気づいたことを言いましょう。」</p> <p>どんな並び方をしているのかな。</p> <p>『縦に並んでいる。』 『10ずつ増えている。』 『他の一の位が同じ数も、縦に並んでいる。』</p> <p>「十の位が6の数を見つけて、気づいたことを言いましょう。」</p> <p>『横に並んでいる。』 『1ずつ増えている。』 『他の十の位が同じ数も、横に並んでいる。』</p> <p>2. □ 「その他に気づいたことを言いましょう」 『左斜めから見ると1・2・3...と並んでいる』 『上の数は、すぐ下の数より10大きい。』</p> <p>3. △3 「問題をつくりましょう。」 『かくした数はいくつですか。』など</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ 数の表の並び方には、きまりがある。</p> </div>	<p>1. P99の図を使って数の並びの規則性に気付かせる。</p> <p>2. 発見したことを発表する。</p> <p>3. 数あてゲームなどを考えて行う。</p>

II 指導のポイント

・数の並びの規則性から、数に興味を持たせましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・発見した気づきを認めることで、積極的な発言を促しましょう。

かずのならばかたをしらべましょう。

99ページのならばかたしらべの
表をできるだけ拡大して貼る。

「もんだいをつくりましょう」

例 かくしたかずはいくつですか

まとめ

かずのひょうのならばかたには、
きまりがある。

きづいたこと

例 ・たてにならんでいる。

・10ずつふえている。

・ほかの一のくらいがおなじかずもた
てにならんでいる。

「十のくらいが6のかずをみつけて、きづ
いたことをいしましょう。」

例 ・よこにならんでいる

・1ずつふえている。

・ほかの十のくらいがおなじかずも
よこにならんでいる。

「そのほかきづいたことをいしましょう」例

・ひだりななめからみると1. 2. 3
とならんでいる

・うえのかずはすぐしたのかずより
10おおきい

目標

・100までの数の系列や大小を捉えることができる。

(数学的な考え方)

本時の流れ

学 習 活 動

1. P100上段の数表

『あ、い、うの目盛りが表す数を言いましょう。』

数の線を使って調べましょう。

「①46より3大きい数は、数の線ではどこですか。」

数の線では、数はどんな並び方をしているのかな。

『46より右に3つ行ったところで、49。』

「②③を数の線を使って、調べましょう。」

『《大きい》は右、《小さい》は左になるね。』

3. △7 「大きいほうに○をつけましょう。」

『十の位を比べると…。』

『数の線で調べると…。』

4. △8 「□に入る数は何でしょう。」

①『1ずつ増えているので…。』

②『10ずつ増えているので…。』

③『5ずつ増えているので…。』

留 意 点

1. 数直線を使って、目盛りと数を対応させる。

3. 数の大小を比較する。

4. 隣同士分かっている数字の並びを手がかりに、数の系列、順序を考える。

II 指導のポイント

・目盛りが等間隔であること、0が基点であることをおさえましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・教科書上段の数直線を使って、実際に指さしながら数え目盛りと数を対応させましょう。

34-1 14 おおきい かず



※書きでも
よい
拡大コピーして
貼ってもよい

かずのせんをつかってしらべましょう

- ① 46より 3 おおきい かず ③ 75より 2 おおきい かず
 ② 68より 4 おおきい かず ④ 81より 5 ちいさい かず

△①

50	47
----	----

 ②

76	82
----	----

 ③

98	89
----	----

△①

67	68			71		73
----	----	--	--	----	--	----

②

40		60	70		90	
----	--	----	----	--	----	--

③

100		98	97		95	
-----	--	----	----	--	----	--

まとめ
かずのせんでは、かずがひだりから
みぎへふえている。

目標 ・ 100より大きい数の系列や大小を捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ	
学 習 活 動	留 意 点
<p>1. □ おちばの数を数えましょう。</p> <p>『10のまとまりが10こで100。』 『ばらが3なので、合わせて...。』</p> <p>「100と3でひゃくさんと言います。ひゃくさんは103と書きます。』</p> <p>2. △2 「数を数えましょう。」 『100のまとまりが1つ。』 『ばらが24。』『合わせて124。』</p> <p>3. △3 「□に入る数は何でしょう。」 ①『1ずつ増えているので...。』 ②『1ずつ増えているので...。』 ③『1ずつ増えているので...。』</p> <p>まとめ 100といくつでひゃくいくつ、と数える。</p>	<p>1. 100のまとまりとあといくつあるか、ということから考える。</p> <p>100 と3を合わせると、1003と書く誤りに注意する。</p> <p>2. 100と24あることから考える。</p> <p>3. 100より大きい数を書く。</p>

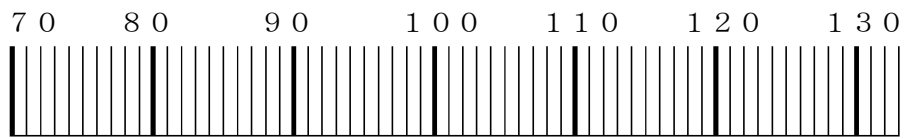
II 指導のポイント

・教科書下段の数直線を使って、120～130程度までの数について、理解させましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・教科書下段の数直線を使って、実際に指さしながら数え、目盛りと数を対応させたり、数を書いたりさせましょう。

かずをかぞえましょう。



※手書きでも
よい
拡大コピー
してもよい

「10のまとまりが10こで100」

「ばらが3なので、あわせて・・・」

「100と3でひゃくさんといいます。ひゃくさんは103とかきます」

まとめ

100といくつでひゃくいくつとかぞえる

目標

・2位数の構成を和や差で捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ㉞</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">計算のしかたを考えましょう。</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">34は30と4です。□に数を書きましょう。</p> <p>①30と4をあわせた数は□です。 しき $30 + \square = \square$ 『30と4で34だから、こたえは34です。』</p> <p>②34から4をとった数は□です。 しき $34 - \square = \square$ 『34から4をとったら30です。』</p> <p>△2、△3 「計算をしましょう」</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">25+3はどう計算するのかな。</p> <p>『10のまとまりとばらで考えると…。』 『10のまとまりはそのまま。』 『ばらが3増えた』 『28』</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">28-3はどう計算するのかな。</p> <p>『10のまとまりとばらで考えると…。』 『10のまとまりはそのまま。』 『ばらが3減った』 『25』</p> <p>△5 けいさんをしましょう。</p> <p>まとめ 「10のまとまりといくつ」を考えると計算できる。</p>	<p>1. 10のまとまりと端数から考える。</p> <p>理解を定着させる。 →シート①</p> <p>2. 10のまとまりと端数から考える。</p> <p>理解を定着させる。 →シート②</p>

II 指導のポイント

ここでは、数の構成の理解を深め、2位数についても、加法、減法が適用できることを捉えさせましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

数の構成の理解をもとに、念頭処理できることが望ましいが、念頭操作できない場合は、実際にブロックなどを操作させましょう。

けいさんのしかたをかんがえましょう。

34は30と4です。□に数を書きましょう。

①30と4をあわせた数は□です。 ②34から4をとった数は□です。

しき $30 + \square = \square$ しき $34 - \square = \square$

きょうかしよ102ページ △2 △3

25 + 3はどう計算するのかな。

28 - 3はどう計算するのかな。

きょうかしよ103ページ △5

まとめ 「10のまとまりといくつ」をかんがえるとけいさんできる

月

日()

時間目

△ 2

① 60 に 3 をたした かずは () です。

$$60 + () = ()$$

② 63 から 3 をひいた かずは () です。

$$63 - () = ()$$

△ 3

$$\textcircled{1} 40 + 2 = ()$$

$$\textcircled{2} 60 + 8 = ()$$

$$\textcircled{3} 42 - 2 = ()$$

$$\textcircled{4} 73 - 3 = ()$$

△ 5

$$\textcircled{1} 23 + 4 = ()$$

$$\textcircled{2} 61 + 8 = ()$$

$$\textcircled{3} 27 - 4 = ()$$

$$\textcircled{4} 58 - 6 = ()$$

目標

・2位数の構成を和や差で捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<div data-bbox="130 427 948 504" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いろがみは、ぜんぶで なんまい ありますか。</p> </div> <p style="text-align: center;">『10の束が3つと2つ。』 『3+2で5束ある』 『10の束が5つで50』</p> <div data-bbox="130 651 948 728" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>のこりは なんまいに なりますか。</p> </div> <p style="text-align: center;">のこりは何枚になりますか。</p> <p style="text-align: center;">「式はどうなりますか」 『50-20』 引き算も10の束で考えてできるかな。 『10の束は5-2で3束なので、30枚。』</p> <p>△8「計算をしましょう。」 ①20+70 ②60+40 ③10+90 ④60-30 ⑤100-20 ⑥100-70</p> <p>まとめ 「10のまとまりといくつ」を考えると計算できる。</p>	<p>1. 10のまとまりがいくつあるかを考える。</p> <p>2. 10のまとまりがいくつあるかを考える。</p> <p>3. 理解を定着させる。 →シート</p>

II 指導のポイント

・ここでは、数の構成の理解を深め、2位数についても、加法、減法が適用できることを捉えさせましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・数の構成の理解をもとに、頭の中で考えることができるのが望ましいが、できない場合は、実際にブロックなどを操作し考えさせましょう。

ぜんぶでなんまいありますか

しき $30 + 20$

〈けいさんのしかた〉

「10のたばが3つと2つ」「3+2で5たばある。」「10のたばが5つで50」

のこりはなんまいになりますか

しき $50 - 20$

〈けいさんのしかた〉

「10のたばは5-2で3たばなので30まい」

△8

① $20 + 70$ ② $60 + 40$ ③ $10 + 90$

④ $60 - 30$ ⑤ $100 - 20$ ⑥ $100 - 70$

まとめ

「10のまとまりといくつ」をかかんがえるとけいさんできる

月

日()

時間目

 $\triangle 8$

$$\textcircled{1} 20 + 70 = (\quad)$$

$$\textcircled{2} 60 + 40 = (\quad)$$

$$\textcircled{3} 10 + 90 = (\quad)$$

$$\textcircled{4} 60 - 30 = (\quad)$$

$$\textcircled{5} 100 - 20 = (\quad)$$

$$\textcircled{6} 100 - 70 = (\quad)$$

目標 ・ 広さの比べ方を考えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>△2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どちらが ひろいでしょう。 くらべかたを かんがえましょう。</p> </div> <p>「広い順に言いましょう。」 どうしたら広さが比べられるかな。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>直接重ねて比 分べる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>机より大きい か小さいかで 比べる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>教科書何冊 かで比べる。</p> </div> </div> <p>○「考えた方法で、広さを比べましょ う。」</p> <p style="text-align: center;">『一番広いのは…。二番目は…。』</p> <p>△3 「くらべかたを かんがえましょう。」</p> <p>「じんとり遊びをしましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールをきめゲームを行う。 <p style="margin-left: 20px;">「どちらが勝ちか比べましょう。」</p> <p style="margin-left: 20px;">『何ますとったか数えると分かるね。』</p> <p style="margin-left: 20px;">『切って重ねても分かるよ。』</p> <p>まとめ</p> <p>広さは、重ねたり、元になる物と比べたり、〇〇がいくつ分、で比べる ことができる。</p>	<p>1. 「広さ」に興味を持たせ、比 べる方法を考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content;"> <p>各自の発想を生かし、工夫 して、広さ比べを行う。</p> </div> <p>2. ゲームを行い、結果を判断 する。 →シート</p>

II 指導のポイント

・ 広さを比べる方法を多様に工夫させることで、広さに興味を持たせましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・ じんとり遊びを通して、どちらが広いかわかる方法を考えさせたり、どれだけ広いかわかる方法を考えさせたりしま
しょう。

ひろさくらべ

広さ比べをするものを貼る

じんとりのるーる

○じゃんけんでかったら

1つぬる

たくさんぬったほうの勝ち

どうしたらひろさがくらべられるかな

- ・ちよくせつかさねてくらべる
- ・つくえとくらべる
- ・きょうかしよとくらべる

まとめ ひろさはかさねたり、もともになるもの
とくらべたり、ooがいくつぶんで
くらべることができる

月

日()

時間目

じんとりあそびを　しょう

目標 ・時刻を1分刻みで読むことができる。 (技能)

I 本時の流れ	
学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P108~109上段の絵 「みなさんは何時頃、学校にきますか。」 「何をしている絵ですか。」 「みなさんと比べて早いですか、遅いですか。」</p> <p>2. 時計の読み方を学びましょう。 ・時計の読み方 ①短い針で「〇時」を読みます。 ②長い針で「〇分」を読みます。 ・読み方の練習をする (P109)</p> <p>3.△2 時計を読みましょう。 『7時58分→7時59分→8時→8時1分→…』 『この次は8時2分…と進むね。』</p> <p>4. 『108~109上段の時計を読みましょう』</p>	<p>1. 日常生活の時刻に興味を持つ。</p> <p>2. 時計の読み方を知る。 時計の模型を使って、実際に針を動かす。長針と短針が連動して動くことをおさえる。</p> <p>3. 理解を定着させる。</p>
<p>6じ おきる → 7じ30ふん いえをでる →10じ10ふん じゅぎょう2じ45ふん げこう→ 8じ15ふん はみがき→8じ23ふん ねる</p>	<p>4. 理解を定着させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い針で「〇時」を読む。 ・長い針で「〇分」を読む。 </div>	

II 指導のポイント

・模型の時計などを使って、実際に針を動かす活動を取り入れ、長針と短針が連動していることを捉えさせましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・P157の針を切り取り、読み方の練習を十分にしましょう。

なんじなんぷん

「とけいのよみかたをまなびましょう」

・とけいのよみかた

①みじかいはりで「〇じ」をよみます。

②ながいはりで「〇ふん」をよみます。

1にちのせいかつ うえのだんのとけいをよみましょう

6じ おきる → 7じ30ふん いえをでる→10じ10ふん じゅぎょう

2じ45ふん げこう→8じ15ふん はみがき→8じ23ふん ねる

まとめ ・みじかいはりで「〇じ」をよむ。

・ながいはりで 「〇ふん」をよむ

目標 ・時計を1分刻みで読むことができる。 (技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<div data-bbox="124 465 940 544" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">とけいを よみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・時計の模型を使って問題を出す。 「何時何分ですか。」 ・友だち同士で問題を出し合う。 <p>△4 時計を読みましょう。</p> <p>2. ㊦ 時計の針を合わせましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計の模型を使って、出された問題の時刻に合わせる。 「〇時△分に合わせましょう。」 ・友だち同士で問題を出し合う。 <div data-bbox="140 1223 930 1395" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い針で「〇時」を読む。 ・長い針で「〇分」を読む。 </div>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の指す時刻を読む練習。 2. 理解の定着 3. 時刻の通りに針を合わせる練習。

II 指導のポイント

・日常生活の中でも、折に触れて「何時何分」を使っていくなど、継続的に指導していきましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・ゲームなどを取り入れて楽しみながら練習する方法もあります。

なんじなんぷん

「とけいをよみましょう」

- ・時計の模型を使って問題を出す。模型がない場合は黒板に時計の絵を描いて問題を出す。

「とけいのはりをあわせましょう」

- ・時計の模型を使って出された問題の時刻にあわせる。

目標

・順序数の加減計算の場面について図解などを用いて数量の関係を捉えることができる。

(数学的な考え方)

本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>□ 1</p> <p>みんなで何人いますか。</p> <p>「おはじきを並べて考えましょう。」 「そらは、どのおはじきになりますか。」 『前から6人目がそらさんだから…。』</p> <p>「人を●で表して、図に書いて考えましょう。」</p> <p>どんな図になるかな。</p> <p>『前から6人だから…。』『後ろに4人だから…。』 『聞いていることはみんなで何人だから…。』</p>	<p>1. 題意を捉え、図にして考え、立式・解答する</p>
<p>□ 2</p> <p>みかさんのうしろには何人いますか。</p> <p>「おはじきを並べて考えましょう。」 「みかさんは、どのおはじきになりますか。」 『前から5人目がみかささんだから…。』</p> <p>「人を●で表して、図に書いて考えましょう。」</p> <p>どんな図になるかな。</p> <p>『みんなで12人だから…。』『前から5人目だから…。』 『聞いていることはうしろは何人だから…。』</p>	<p>2. 題意を捉え、図にして考え、立式・解答する。</p>

II 指導のポイント

・位置や順序を表す順序数を、量的な意味を持つ集合数に戻して考えることで、加法・減法の意味を広げる学習です。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・おはじきやブロックを使って操作したり、図を書いたりして、理解を促しましょう

みんなでなんにんいますか

「ひとを●であらわしてずにかいてかんがえましょう」

どんなずになるのかな

● ● ● ● ● ○ ● ● ● ●
1 2 3 4 5 6 1 2 3 4

みかさんのうしろにはなんにんいますか

どんなずになるのかな

● ● ● ● ○ ● ● ● ● ● ● ● ●
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

まとめ ひとを●であらわしてずにするとかんがえやすい

目標

異種の数量の加減計算の場面について図解などを用いて数量の関係を捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>△3</p> <p>一輪車は全部で何台ありますか。</p> <p>「5と3は何の数ですか。」</p> <p>「聞いていることは何ですか。」</p> <p>『一輪車の数。』</p> <p>「人を△、一輪車を●で表して、図に書いて考えましょう。」</p> <p>どんな図になるかな。</p> <p>『人は5人だから一輪車も...』『あと3台あるから...』</p> <p>『聞いていることは全部で何台だから...』</p>	<p>1. 題意を捉え、図にして考え、立式・解答する。</p> <p>人と一輪車を1対1 対応させて、「5人」を「5台」に置き換え</p>
<p>△4</p> <p>いすにすわれない人はなんにんですか。</p> <p>「9と6は何の数ですか。」</p> <p>「聞いていることは何ですか。」</p> <p>『いすにすわれない人の数。』</p> <p>「いすを▲、人を●で表して、図に書いて考えましょう。」</p> <p>どんな図になるかな。</p> <p>『人は9人だからすわれない人の数は...。』</p> <p>『いすにすわれない人の数だから...。』</p> <p>まとめ</p> <p>●や▲で表して図にすると考えやすい。</p>	<p>2. 題意を捉え、図にして考え、立式・解答する。</p>

II 指導のポイント

・異種の量の加減は、1対1対応の考えで、与えられた数量の1つを、他の数量に置き換えて考えることが大切です。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・おはじきやブロックを使って操作したり、図を書いたりして、理解を促しましょう。

ひとを△、いちりんしゃを●であらわして、ずにかいてかんがえましょう

どんなずになるかな

△ △ △ △ △
● ● ● ● ● ● ● ●

いすにすわれないひとは なんにんですか

けいきを▲ひとを●であらわしてずにかいてかんがえみましょう

どんなずになるかな

△ △ △ △ △ △
● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

目標

求大、求小の数量の加減計算の場面について図解などを用いて数量の関係を捉えることができる。
(数学的な考え方)

本時の流れ

学 習 活	留 意 点
<p style="text-align: center;">りんごの あめは なんこ ありますか</p> <p>□5 「みかんのあめはなんこですか。」 「聞いていることは何ですか。」 『みかんのあめの数。』 「それぞれ●で表して、図に書いて考えましょう。」</p> <p style="text-align: center;">どんな図になるかな。</p> <p style="text-align: center;">『りんごは《多い》だから...。』</p> <p>△6 「しろいかみは何まい買いましたか。」</p> <p style="text-align: center;">たかしさんは なんこ ひろいましたか。</p> <p>「ゆみさんは何個取りましたか。」 「聞いていることは何ですか。」 『たかしさんの数。』 「ゆみさん、たかしさんそれぞれを●で表して、図に書いて考えましょう。」</p> <p>△8 「しろぐみは なんこ はいりましたか。」</p> <p>まとめ 図にすると、足し算なのか引き算なのか、考えやすい。</p>	<p>1. 題意を捉え、図にして考え、立式・解答する。</p> <p>みかんとりんごを1対1対応させて、「多い」は足し算になることを考えさせる。</p> <p>2. 理解の定着を図る。</p> <p>3. 題意を捉え、図にして考え、立式・解答する。</p> <p>4. 理解の定着を図る。</p>

II 指導のポイント

- ・「合併や増加」「球残や球差」に比べると、「求大・求小」は難しいので、じっくりと問題を読ませ、条件を整理していきましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

- ・おはじきやブロックを使って操作したり、図を書いたりして、理解を促しましょう。

目標

場面の題意に合わせ、図解などを用いて数量の関係を捉えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ㊦</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">全部で何人並んでいますか。</p> <p>『全部でだから足し算かな。』『4+3でいいのかな。』</p> <p>「そらさんの前にいる人は何人ですか。」</p> <p>『4人』</p> <p>「そらさんの後ろにいる人は何人ですか。」</p> <p>『3人』</p> <p>「聞いていることは何ですか。」</p> <p>『全部の人の数。』</p> <p>「そらさんを●、前と後ろの人を○で表して、図に書いて考えましょう。」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">4 + 3になるのかな。</p> <p>『けんさんの前と後ろに...。』</p> <p>『4 + 3ではけんさんの人数が入っていないよ。』</p> <p>『けんさんの分の1を足す必要がある。』</p> <p>2. ① 「式と答えを書きましょう。」</p> <p>3. ② 「こうたさんはどんな順で足していますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しほさんの吹き出しの続きを考える。 <p>4. ③ 「みさきさんはどんな順で足していますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みさきの考えの続きを説明する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">図にすると、正しい答えを出す式を考えやすい。</p>	<p>1. 題意を捉え、図にして考え。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>教科書を閉じて問題を出し、$4 + 3 = 7$ という誤答を生かしていく。図を書くことによって、「+1」が必要であることが分かり、図を書いて考えることの有効性が実感できる。</p> </div> <p>2. 式と答えを書く。</p> <p>3・4. 式の意味を考える。</p>

II 指導のポイント

・図を書いて考えることによって、足し算か引き算か分かりやすかったり、本時のように間違いやすい問題も正しく答えることができることを実感させましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・おはじきやブロックを使って操作したり、図を書いたりして、理解を促しましょう。

ぜんぶでなんにんならんでいますか

そらさんを●、まえとうしろのひとを○であらわしてずにかいてかんがえましょう

4 + 3 になるのかな

○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ○ しき $4 + 3 + 1 = 8$

「こうたさんはどんなじゅんでたしていますか」

しほ「さいしょにまえの4にんとうしろの3にんを（つづきをかかんがえましょう）」

「みさきさんはどんなじゅんでたしていますか」

みさき「さいしょにまえの4にんとそらさんを（つづきをかかんがえましょう）」

まとめ ずにする、ただしいこたえをだすしきをかかんがえやすい

目標

・身の回りのものを図形として捉え、色板で基本図形を構成することができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>□ 1 色板を並べていろいろな形を作しましょう。</p> <p>【P120】どんな形を作っているかな。」 『ロケット、魚、家…。』 「色板で教科書と同じ形を作しましょう。」 「自分の好きな形を作しましょう。」</p> <p>○○がつくれるかな。何枚でできるかな。</p> <p>『動物ができるかな。』『乗り物ができるかな。』 「作った形を発表しましょう。」</p>	<p>1. 平面図形に親しみながら基本的な理解を深める。</p> <p>身のまわりにある物を平面図形として捉えさせ、直角に等辺三角形を使って、イメージし、楽しみながら構成させる。</p>
<p>□ 2 形 (P121) を作しましょう。</p> <p>「4枚で①～④を作しましょう。」 『向きを考えて合わせるとできるね。』 『同じ4枚なので広さは同じだね。』</p>	<p>2. 4枚の色板で形を作る。</p> <p>広さは同じであることに気づかせる。</p>
<p>3. △ 3 1枚だけうごかして、かたちをかえましょう。</p> <p>「教科書に線を入れて考えましょう。」 『並べ方は1つではないね。』</p>	<p>3. 色板を置かないで置き方を考える。</p>
<p>まとめ さんかくを使って、いろいろな形ができる。</p>	

II 指導のポイント

・「広さは同じ」「並べ方がいろいろある」「小さな三角で大きな三角ができる」など作る楽しさの中で見つけた、発見の楽しさを引き出していきましょう。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・図形を合成、分解、移動させるという操作活動を行うことによる図形の変化を捉えさせましょう。

いろいろをならべていろいろなかたちをつくりましょう

色板がない場合は、折り紙などを直角二等辺三角形に切って用意しておく

かんがえたかたち
子供たちに描かせるとよい。

まとめ
さんかくをつかっているいろいな
かたちができる。

目標

・身の回りのものを図形として捉え、数え棒で基本図形を構成することができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>□ 5.</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">数え棒でいろいろな形を作しましょう。</p> <p>【P123】どんな形を作っているかな。」 『ロケット、魚、家…。』 「色板で作った魚を数え棒で作って比べましょう。」 「数え棒で教科書と同じ形を作しましょう。」 「自分の好きな形を作しましょう。」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">他にどんな形ができるかな。</p> <p>『動物ができるかな。』『乗り物ができるかな。』 「作った形を発表しましょう。」</p> <p>「みんなが作った形の中にはどんな形が隠れているかな。」 『さんかく』 『しかく』 『ながいしかく』『屋根のような形』…</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">まとめ 数え棒でも色板と同じようにいろいろな形ができる。</p>	<p>1. 平面図形に親しみながら基本的な理解を深める。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>数え棒と色板を関連させて形を理解させる。</p> </div> <p>2. 輪郭に着目して基本図形の構成を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>へりだけでできた形も三角や四角であることを理解させる。</p> </div>

II 指導のポイント

・「中が詰まっている図形」を「線(辺)だけでできている図形」として捉え直し、同一視することを学習します。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

・前時で色板でいろいろな形を作ったことと関連させて考えさせることによって、輪郭と基本図形の構成に着目させましょう。

かぞえぼうでいろいろなかたちをつくりましょう

かんがえたかたち

かかれているかたち

- 例
- ・さんかく
 - ・しかく
 - ・ながしかく
 - ・やねのようなかたち
など

まとめ

かぞえぼうでもいろいろと
おなじようにいろいろな
かたちができる。

目標

- ・身の回りのものを図形として捉え、格子点を結んで基本図形を構成することができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>□6 今までは色板や数え棒でいろいろな形を作ったね</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 点を線でつないで、いろいろな形を作りましょう。 </div> <p>【P124右上】何の形かな。」</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 他にどんな形ができるかな。 </div> <p>「自分の好きな形を作りましょう。」 『動物ができるかな』『乗り物ができるかな』 「作った形を発表しましょう。」</p> <p>2. みんなが作った形の中にはどんな形が隠れているかな 『さんかく』 『しかく』 『ながいしかく』『屋根のような形』...</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 20px 0;"> まとめ 点を線でつないでも、色板や数え棒と同じようにいろいろな形ができる。 </div>	<p>1. 平面図形に親しみながら基本的な理解を深める。</p> <p>2. 輪郭に着目して基本図形の構成を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 20px 0;"> ものの形は基本図形の組み合わせでできていることを捉えさせましょう。 </div>

II 指導のポイント

- ・「中が詰まっている図形」を「線(辺)だけでできている図形」として捉え直し、同一視することを学習します。

III 子どもにさせる数学的な活動のポイント

- ・操作活動は、面積の保存性や等積変形の素地になります。

てんをせんでつないでいろいろなかたちをつくりましょう

かんがえたかたち
子供たちに描かせるとよい。

かくれているかたち
例 ・さんかく
・しかく
・ながしかく
・やねのようなかたち

まとめ
てんをせんでつないでも、
いろいたやかぞえぼうと
おなじようにいろいろな
かたちができる。